

神戸市ヒアリ等対策マニュアル

第6章 ヒアリ等対策検討に必要な情報

8. 万が一、市内にヒアリの初期定着が確認された際の薬剤を使用した 防除試験の詳細結果 (アルゼンチンアリをヒアリに見立てて)

ポートアイランドⅡ期のアルゼンチンアリが営巣している神戸市所有の空地、及び検討協力事業者所有の空地や敷地の計 10 区域において実施した防除試験の詳細な結果を示す。

目 次

1. K地区の防除試験	P. 1
2. D地区の防除試験	P. 3
3. Y地区の防除試験	P. 5
4. R地区の防除試験	P. 7
5. T地区の防除試験	P. 9
6. O地区第1区の防除試験	P. 11
7. O地区第2区の防除試験	P. 13
8. G地区第1区の防除試験	P. 15
9. G地区第2区の防除試験	P. 19
10. G地区第3区の防除試験	P. 26
【参考①】 G地区全体のアルゼンチンアリの防除状況	P. 32
【参考②】 薬剤を散布していない中公園と北公園のアリの動向	P. 41

1. K地区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・神戸市所有地・未舗装・雑草地・草刈無し・フェンスに囲まれ、人の立入無し	

(2) K地区の防除試験から得られた知見

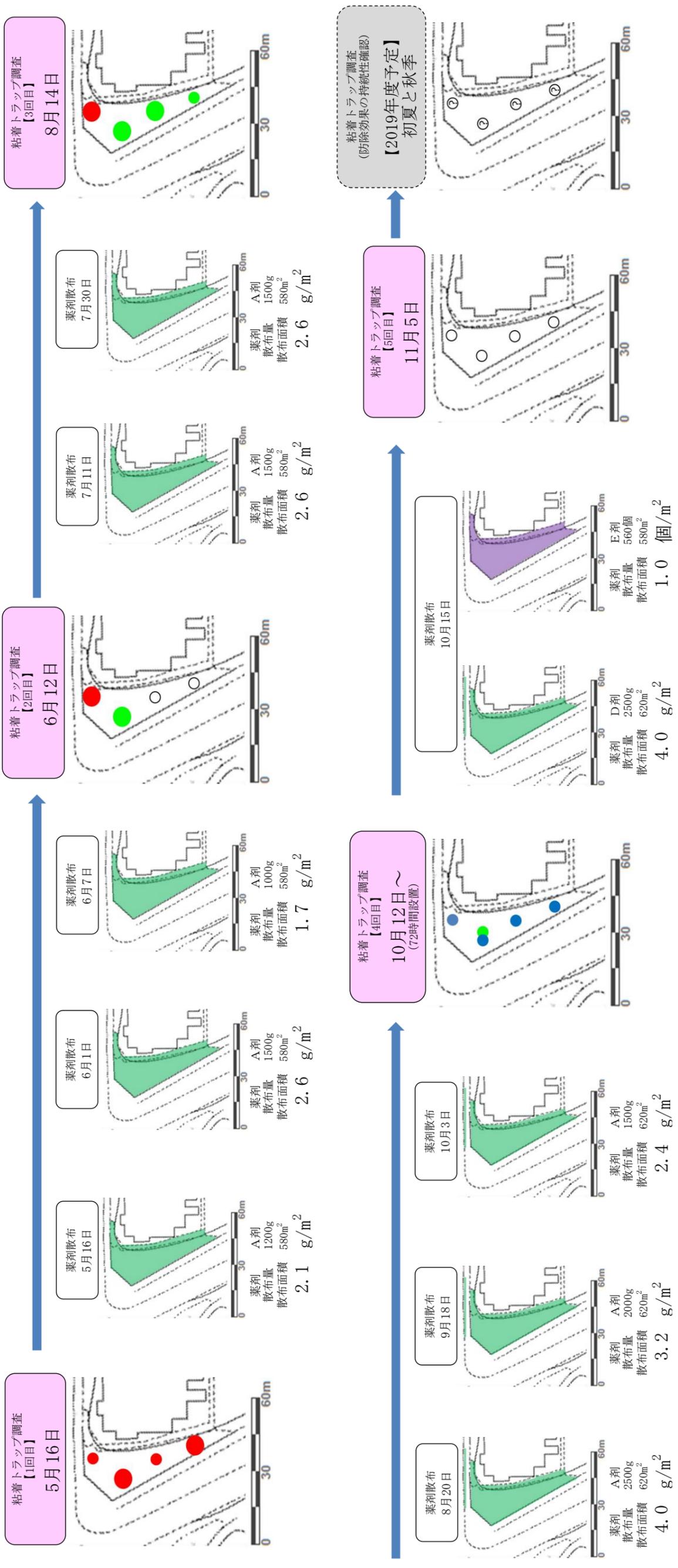
- ① IGRのみで根絶の可能性があること
- ② IGRを約 3g/m²/回を 8回 程度散布することで根絶の可能性があること
- ③ 駆除後に在来種のアリの定着の可能性があること

(3) K地区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月3日まで) 薬剤：A剤 散布回数：8回 平均散布量：2.7g/m²/回 総散布量：21.2g/m²

- ：アルゼンチンアリ11個体以上
- ：アルゼンチンアリ1~10個体
- ：アリの個体
- ：アリの個体
- ：在来種のアリ11個体以上
- ：在来種のアリ1~10個体
- ：アリの個体
- ：アリの個体
- ：在来種以外のアリ11個体以上
- ：在来種以外のアリ1~10個体
- ：アリの個体
- ：アリの個体
- ：IGR (顆粒状) 散布範囲
- ：神経伝達阻害剤 (ペースト状) 散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



2. D地区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・神戸市所有地・未舗装・雑草地・草刈無し・フェンスに囲まれ、人の立入無し	

(2) D地区の防除試験から得られた知見

アルゼンチンアリが広く検出された原因の一つとして、ベイト剤散布量が少なかったことが考えられる。

(参考) D地区とK地区のベイト剤散布量の比較

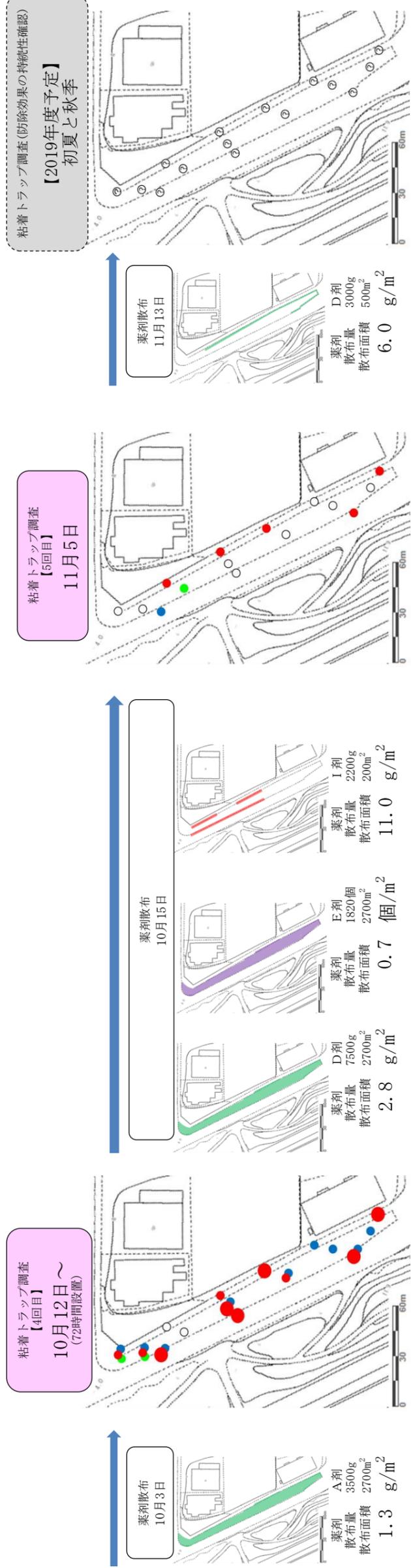
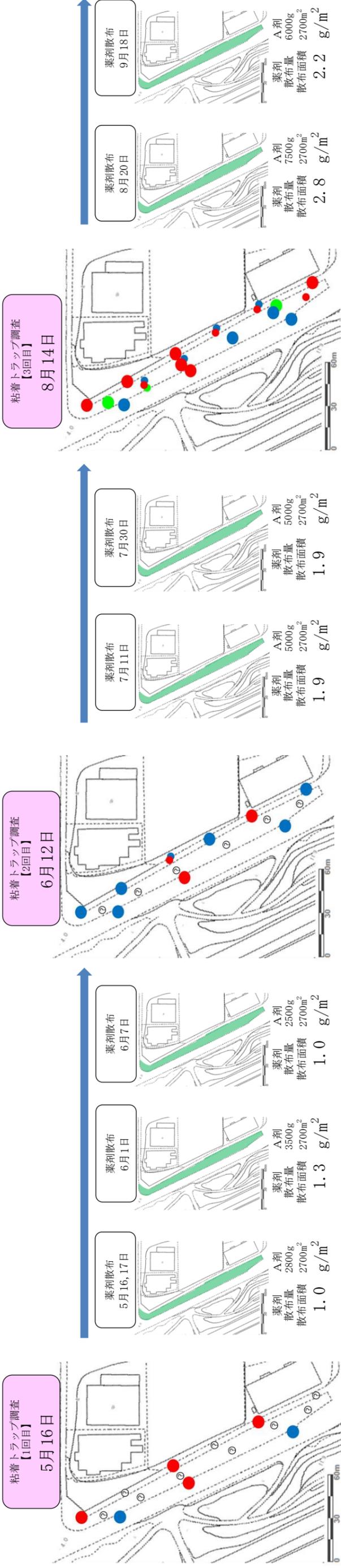
	ベイト剤平均散布量 (10月3日まで)	ベイト剤散布回数 (10月3日まで)
D地区	1.7g/m ² /回	8回
K地区	2.7g/m ² /回	8回

(3) D地区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月3日まで) 薬剤：A剤 散布回数：8回 平均散布量：1.7g/m²/回 総散布量：13.3g/m²

- ：アルゼンチンアリ11個体以上
- ：アルゼンチンアリ1~10個体
- ：在来種のトビイロシロアリ11個体以上
- ：在来種のトビイロシロアリ1~10個体
- ：アリ0個体
- ◎：未調査
- ：神経伝達阻害剤（ペースト状）散布範囲
- ：神経伝達阻害剤（粉末状）散布範囲
- ：IGR（顆粒状）散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



3. Y地区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 事業者が神戸市より借りて駐車場として使用・ 一部舗装・ トラックの往来部は雑草無し、その周囲は雑草が繁茂・ 地形的に人の立入が困難な場所が存在	

(2) Y地区の防除試験から得られた知見

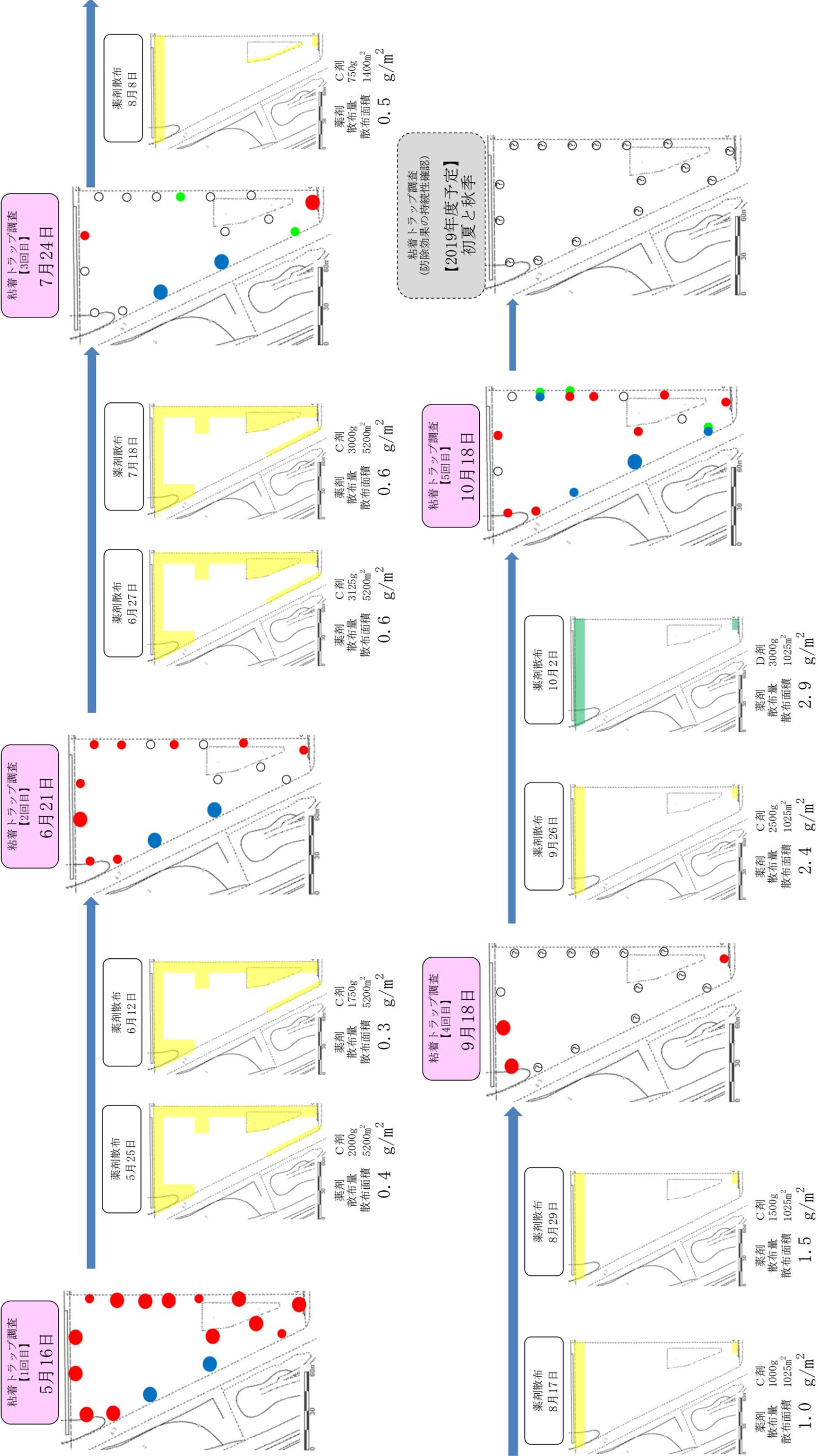
- ① C剤によるアルゼンチンアリの駆除効果があること
- ② 防除区域内において、一度不検出になっても、他の調査地点において検出している限りは、継続したベイト剤の散布が必要であること
- ③ 防除区域内において、在来のアリの生息域を保護しながらベイト剤散布による駆除が可能であること

(3) Y地区のアルゼンチンアリの防除状況

・薬剤：C剤 散布回数：8回 平均散布量：0.9g/m²/回 総散布量：7.3g/m²
 ・薬剤：D剤 散布回数：1回 平均散布量：2.9g/m²/回 総散布量：2.9g/m²

●：アルゼンチンアリ11個体以上 ●：在来種のアリ11個体以上 ○：アリ0個体
 ●：アルゼンチンアリ1~10個体 ●：在来種のアリ1~10個体 ⊙：未調査
 ■：ICR（顆粒状）散布範囲
 ■：エネルギー代謝阻害剤（顆粒状）散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



4. R地区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">• 事業者が神戸市より借りて駐車場として使用• 南側半分はアスファルト舗装されているものの、南敷地境界と西敷地境界付近が雑草地• 北側半分が砂利で覆われ、一部雑草が繁茂	

(2) R地区の防除試験から得られた知見

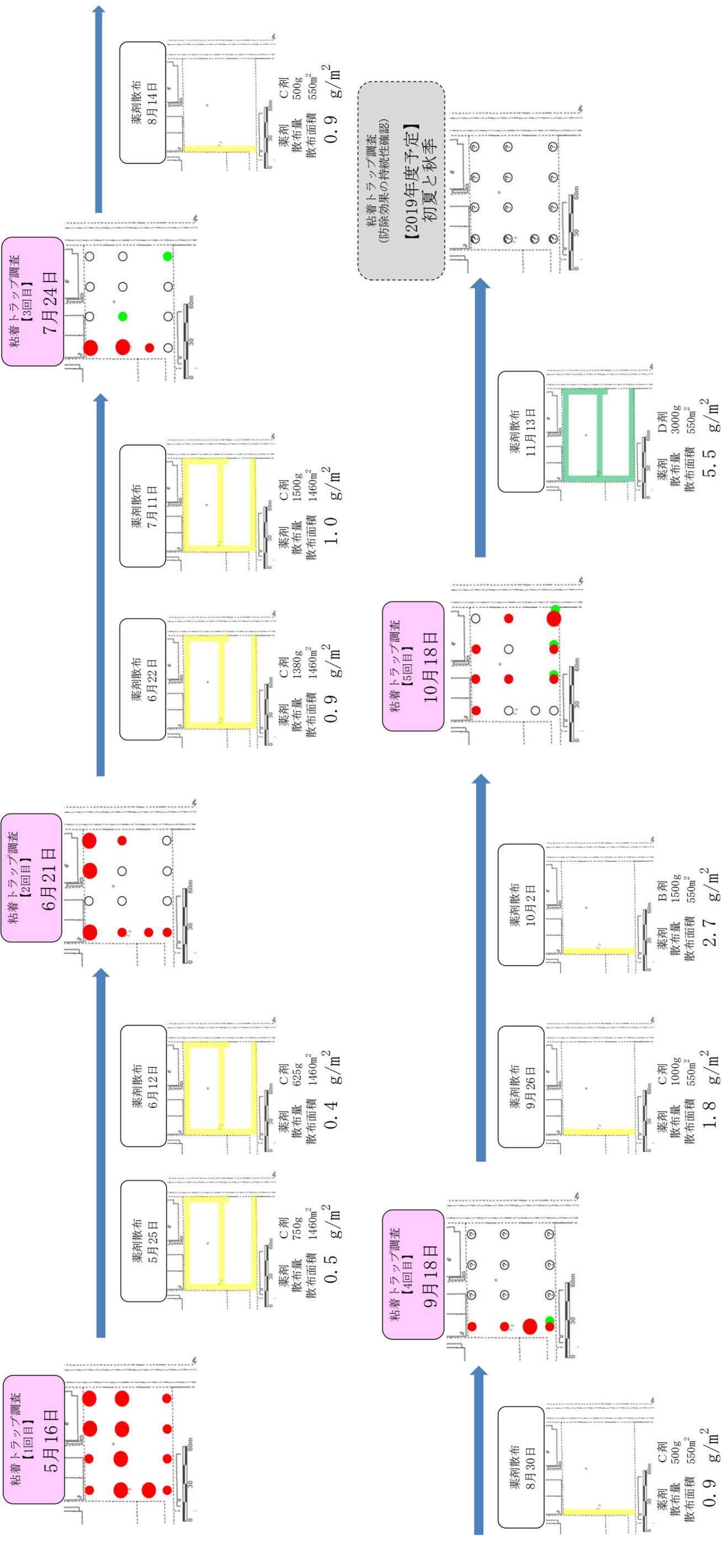
- ① C剤によるアルゼンチンアリの駆除効果があること
- ② 防除区域内において、一度不検出になっても、他の調査地点において検出している限りは、継続したバイト剤の散布が必要であること

(3) R地区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月2日まで) 薬剤：C剤 散布回数：7回 平均散布量：0.9g/m²/回 総散布量：6.6g/m²
 薬剤：B剤 散布回数：1回 平均散布量：2.7g/m²/回 総散布量：2.7g/m²

●：アルゼンチンアリ11個体以上 ●：在来種のトビイロシワアリ11個体以上 ●：在来種以外のアリ11個体以上 ○：アリ0個体
 ●：アルゼンチンアリ1~10個体 ●：在来種のトビイロシワアリ1~10個体 ●：在来種以外のアリ1~10個体 ◎：未調査

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



5. T地区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 神戸市所有地・ 人工芝のテニスコート・ 人の立入無し	

(2) T地区の防除試験から得られた知見

- ① アルゼンチンアリの巣を確認、及び推測される箇所に対する神経伝達阻害剤の液剤散布の駆除効果が高いこと
- ② 防除区域の設定は、建物や幅の大きい道路など物理的にアリの往来が遮断されるように設置することが必要であること

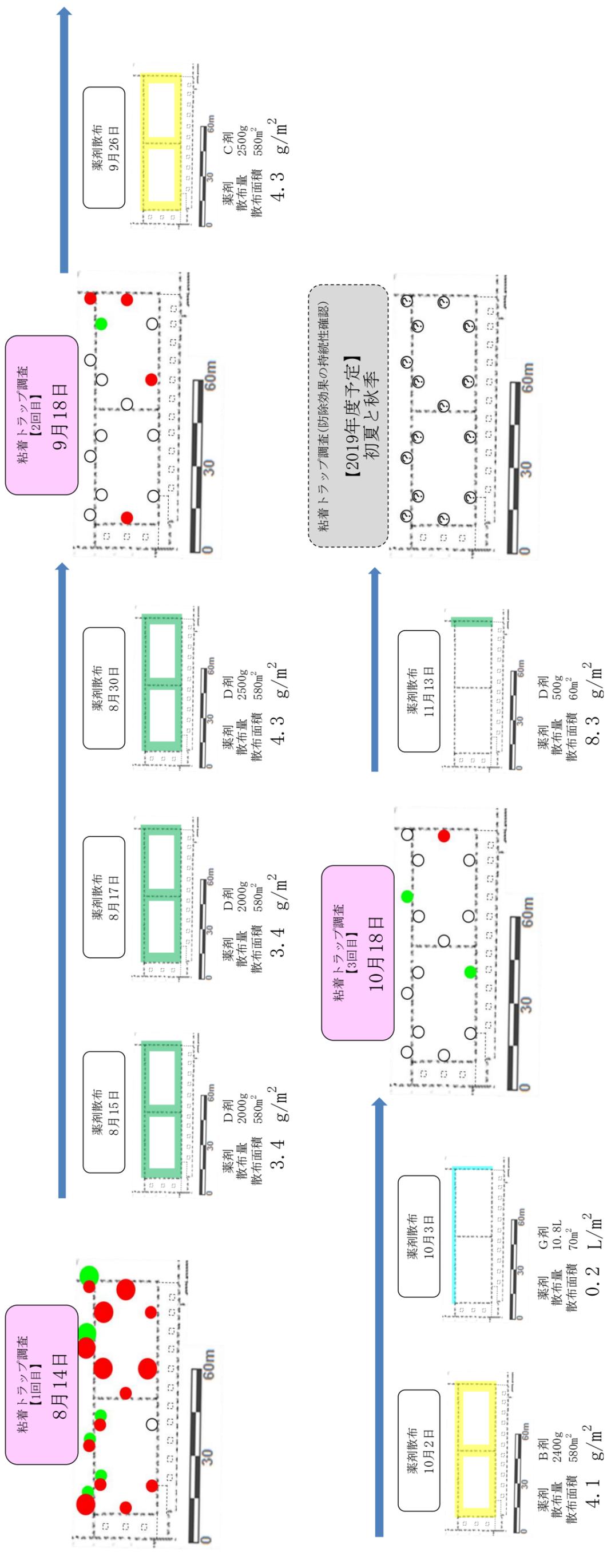
(3) T地区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月3日まで)	・薬剤：D剤 ・薬剤：B剤	散布回数：3回 散布回数：1回	平均散布量：3.7g/m ² /回 平均散布量：4.1g/m ² /回	総散布量：11.2g/m ² 総散布量：4.1g/m ²	・薬剤：C剤 ・薬剤：G剤	散布回数：1回 散布回数：1回	平均散布量：4.3g/m ² /回 平均散布量：10.8L/回	総散布量：4.3g/m ² 総散布量：10.8L
-----------	------------------	--------------------	--	---	------------------	--------------------	---	--

- : アルゼンチンアリ11個体以上
- : アルゼンチンアリ1~10個体
- : 在来種のアリ11個体以上
- : 在来種のアリ1~10個体

- : アリ0個体
- : IGR (顆粒状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (液状) 散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



6. O地区第1区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 事業者所有地・ 未舗装の雑草地・ 人の立入無し	

(2) O地区第1区の防除試験から得られた知見

- ① IGRと神経伝達阻害剤等の組み合わせの散布が有効であること
- ② 防除区域内において、一度不検出になっても、他の調査地点において検出している限りは、継続したベイト剤の散布が必要であること

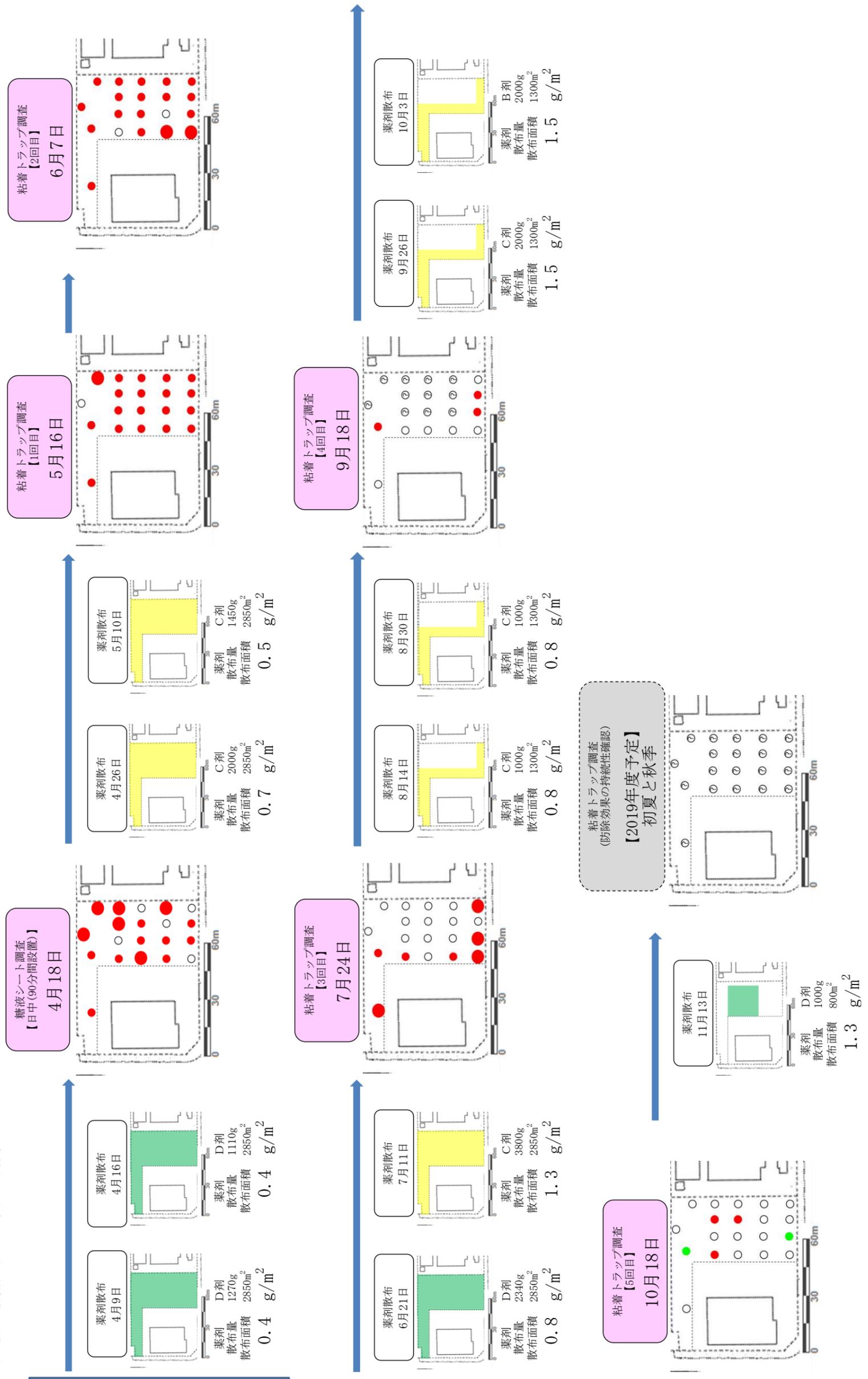
(3) O地区第1区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月3日まで) ・薬剤：D剤 散布回数：3回 平均散布量：0.6g/m²/回 総散布量：1.7g/m² 散布回数：6回 平均散布量：0.9g/m²/回 総散布量：5.6g/m²
 ・薬剤：B剤 散布回数：1回 平均散布量：1.5g/m²/回 総散布量：1.5g/m²

- ：アルゼンチンアリ11個体以上 ●：在来種のトビロシワアリ11個体以上 ○：アリ0個体 ■：IGR (顆粒状) 散布範囲
- ：アルゼンチンアリ1~10個体 ●：在来種のトビロシワアリ1~10個体 ◎：未調査 ■：神経伝達阻害剤、エネルギー代謝阻害剤 (顆粒状) 散布範囲

※糖液シート調査：糖液 (20%さとうきび原料糖・糖蜜水溶液) に浸したシート (約10cm×10cmの白色ペーパータオル) を約90分間設置
 ※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置

目視でアルゼンチンアリの複数箇所を確認



7. O地区第2区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 神戸市所有地・ 舗装され植樹された部分と未舗装部分あり・ フェンスで囲まれ、人の立入が制限された箇所と自由に立入が可能な箇所がある	

(2) O地区第2区の防除試験から得られた知見

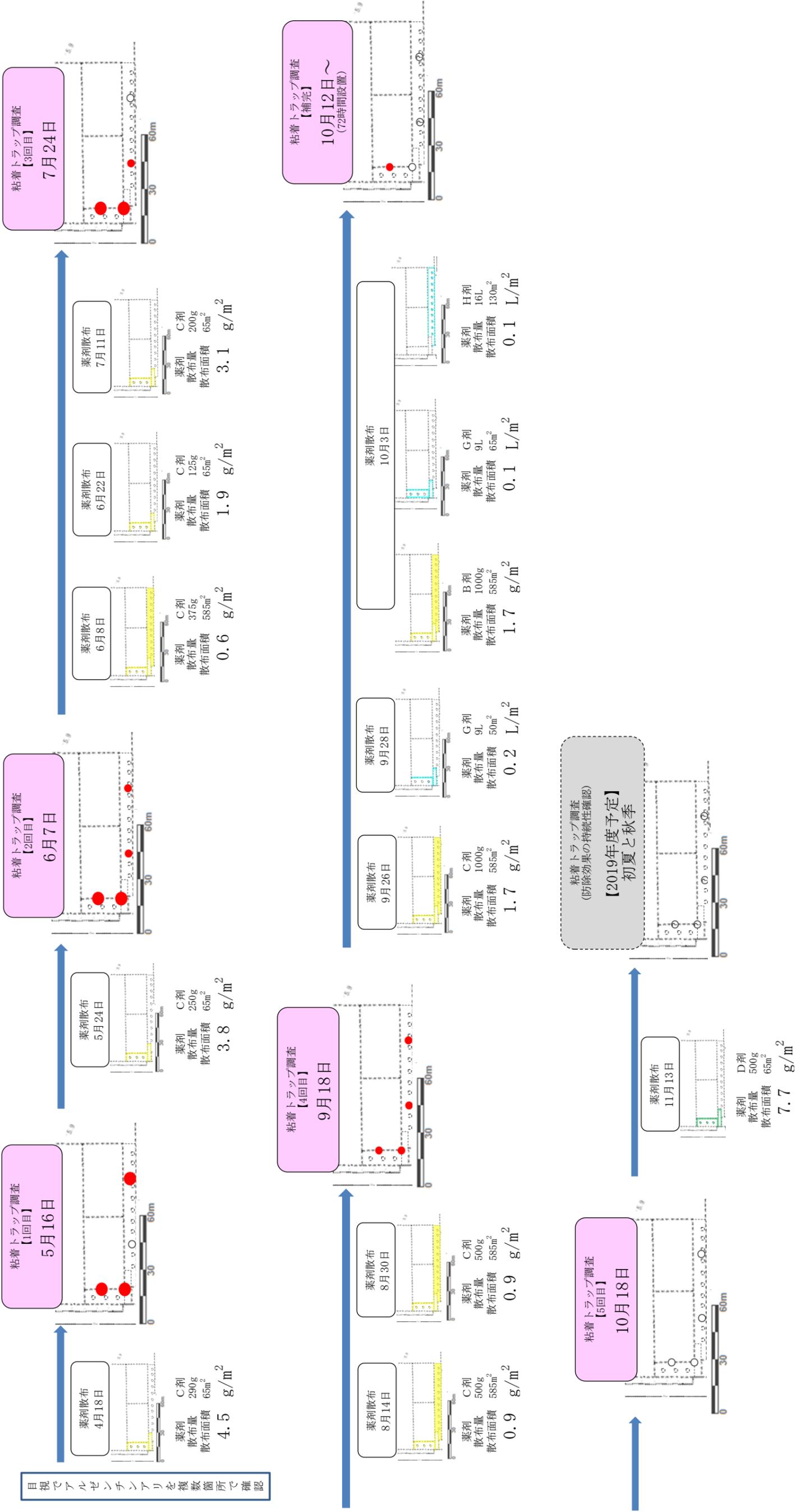
アルゼンチンアリの巣を確認、及び推測される箇所に対する神経伝達阻害剤の液剤散布の駆除効果が高いこと

(3) O地区第2区のアルゼンチンアリの防除状況

(10月3日まで) ・薬剤：C剤 散布回数：8回 平均散布量：2.2g/m²/回 総散布量：17.4g/m² 散布回数：1回 平均散布量：1.7g/m²/回 総散布量：1.7g/m²
 ・薬剤：G剤 散布回数：2回 平均散布量：9L/回 総散布量：18L
 ・薬剤：B剤 散布回数：1回 平均散布量：16L/回 総散布量：16L
 ・薬剤：H剤 散布回数：1回 平均散布量：16L/回 総散布量：16L

●：アルゼンチンアリ11個体以上
 ●：在来種のトビロシワアリ11個体以上
 ○：アリ0個体
 ●：アルゼンチンアリ1~10個体
 ●：在来種のトビロシワアリ1~10個体
 ⊙：未調査
 ●：アルゼンチンアリ1~10個体
 ●：在来種のトビロシワアリ1~10個体

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置



8. G地区第1区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間施設の駐車場でアスファルト舗装 ・ 駐車場には、縁石で区画された芝生等の緑地が整備 ・ 人や車が往来 	

(2) G地区第1区の防除試験から得られた知見

- ① IGRと神経伝達阻害剤の組み合わせの散布が有効であること
- ② IGR単独散布より、IGRと神経伝達阻害剤の組み合わせの方が有効であること

	IGRと神経伝達阻害剤 の組み合わせ散布 (G地区第1区)	IGRの単独散布 (K地区)
散布量	約 2g/m ² /回	約 3g/m ² /回

- ③ 営巣できないような場所（アスファルト舗装等）にはベイト剤の散布は不要であること
- ④ 防除区域内で不検出になっても、一定期間のベイト剤の継続散布が必要であること
- ⑤ 防除区域は、アリが往来できないよう物理的に遮断された区域の設定が必要であること

(3) G地区第1区のアルゼンチンアリの防除状況

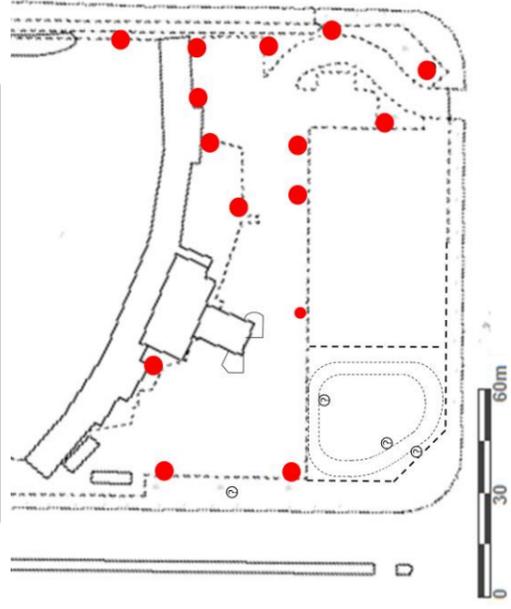
(8月13日まで) ・薬剤：A剤 散布回数：3回 平均散布量：1.6g/m²/回 総散布量：4.8g/m² ・薬剤：B剤 散布回数：5回 平均散布量：1.8g/m²/回 総散布量：9.2g/m²
 ・薬剤：H剤 散布回数：1回 平均散布量：4L/回 総散布量：4L

- ：アルゼンチンアリ11個体以上 ●：在来種のトビロシワアリ11個体以上 ●：在来種のその他のアリ11個体以上 ○：アリ0個体 ■：IGR（顆粒状）散布範囲 ■：神経伝達阻害剤（液状）散布範囲
- ：アルゼンチンアリ1～10個体 ●：在来種のトビロシワアリ1～10個体 ●：在来種のその他のアリ1～10個体 ○：未調査 ■：神経伝達阻害剤（顆粒状）散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置

粘着トラップ調査【1回目】

5月9日



薬剤散布 5月9日

薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

薬剤散布 5月16日

薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

薬剤散布 5月24日

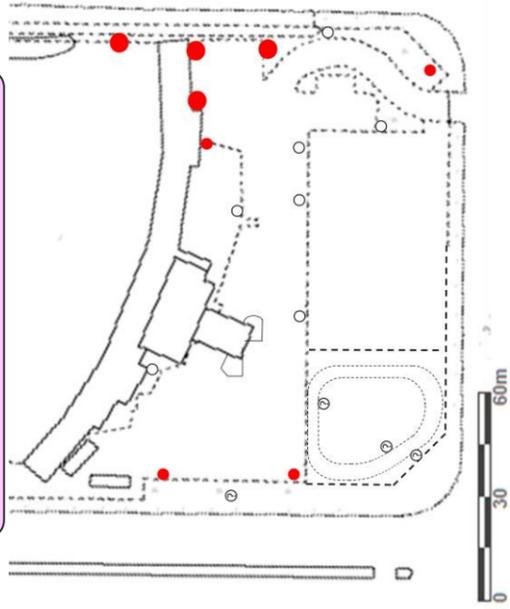
薬剤 B剤
散布量 2100g
散布面積 1260m²
1.7 g/m²

薬剤散布 6月2日

薬剤 B剤
散布量 2100g
散布面積 1260m²
1.7 g/m²

粘着トラップ調査【2回目】

6月7日

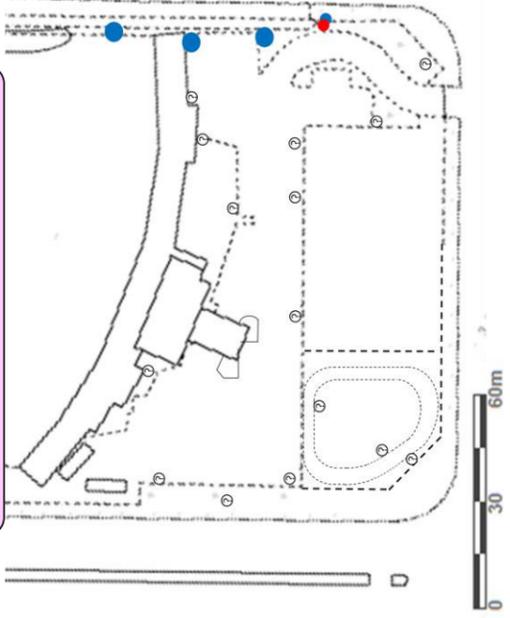


薬剤散布 6月16日

薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

粘着トラップ調査【3回目】

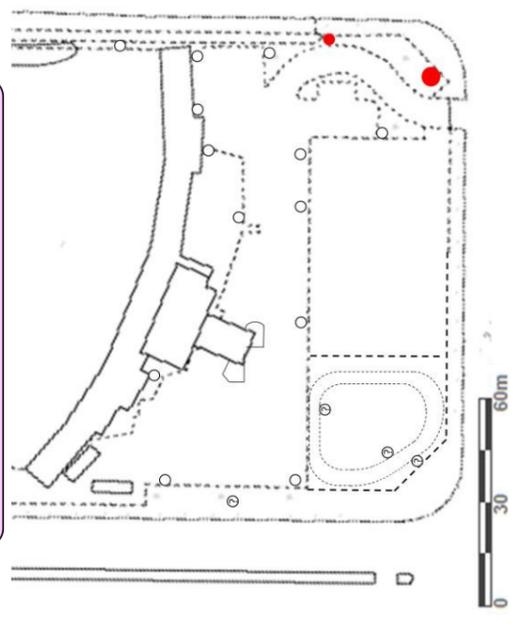
7月10日



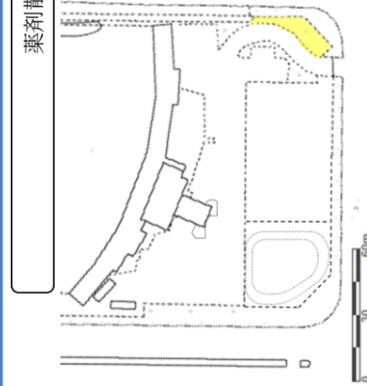
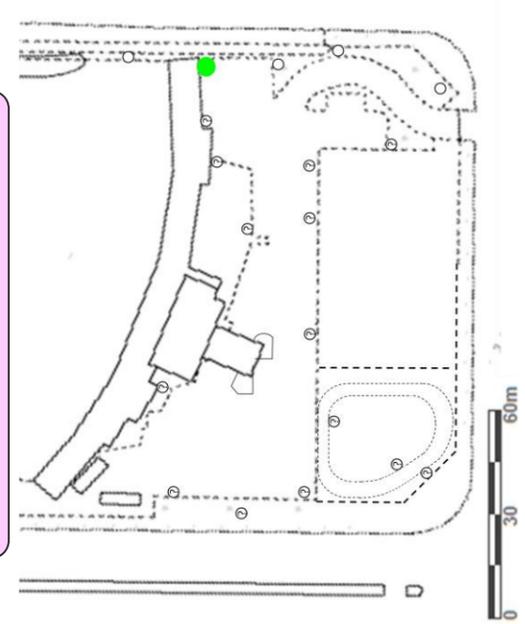
薬剤散布 7月14日

薬剤 B剤
散布量 2400g
散布面積 1260m²
1.9 g/m²

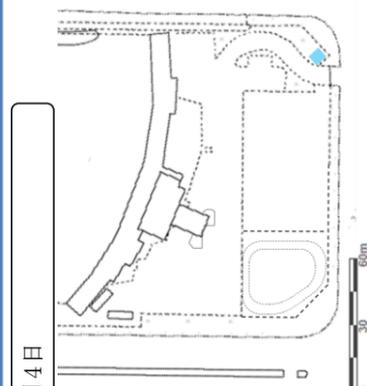
粘着トラップ調査【4回目】
7月24日



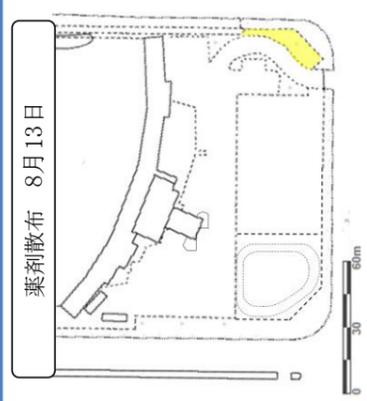
粘着トラップ調査【5回目】
8月13日



薬剤
B剤
散布量 600g
散布面積 300m²
2.0 g/m²

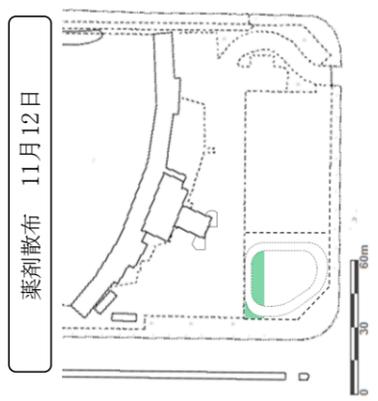
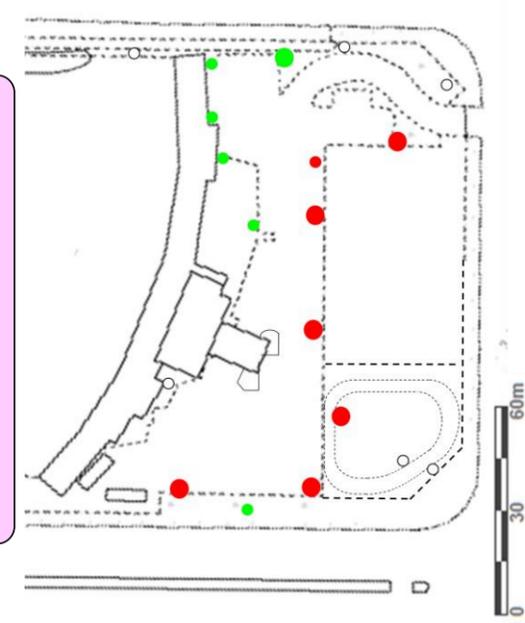


薬剤
H剤
散布量 4L
散布面積 1.0m²
0.4 L/m²



薬剤
B剤
散布量 600g
散布面積 300m²
2.0 g/m²

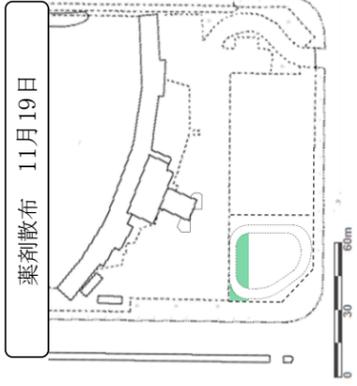
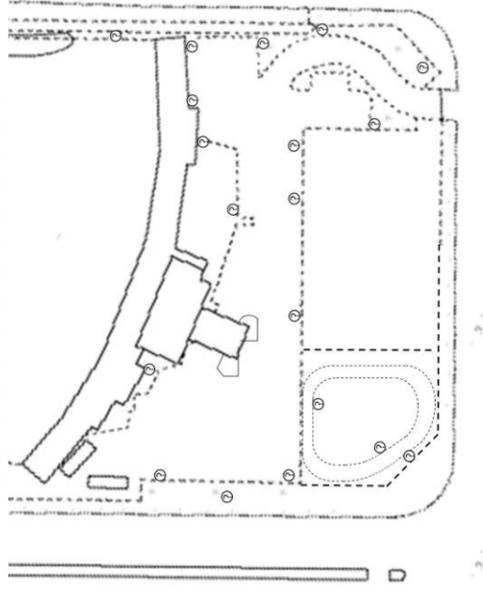
粘着トラップ調査【6回目】
11月5日



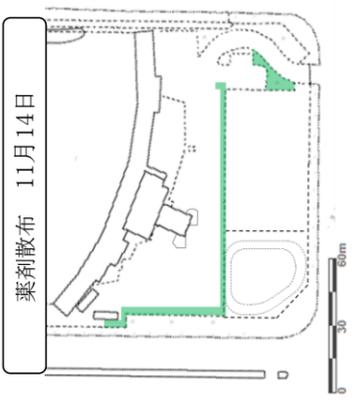
薬剤
A剤
散布量 1000g
散布面積 170m²
5.9 g/m²

約3ヶ月間
薬剤散布中止

粘着トラップ調査(防除効果の持続性確認)
【2019年度予定】
 初夏と秋季



薬剤 A剤
 散布量 1000g
 散布面積 170m²
 5.9 g/m²



薬剤 A剤
 散布量 1500g
 散布面積 400m²
 3.8 g/m²

9. G地区第2区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 民間施設で北側が人工芝、南側が芝生・ 敷地内の施設外周が土壌・ 民間施設の職員以外の立入無し・ 民間施設の敷地東側の公道に緑地有り	 

(2) G地区第2区の防除試験から得られた知見

- ① E剤とF剤によるアルゼンチンアリの駆除効果があること
- ② E剤約1個/m²/回を3回、F剤約3～5個/m²/回を2回程度の散布では、アルゼンチンアリの根絶は困難であること

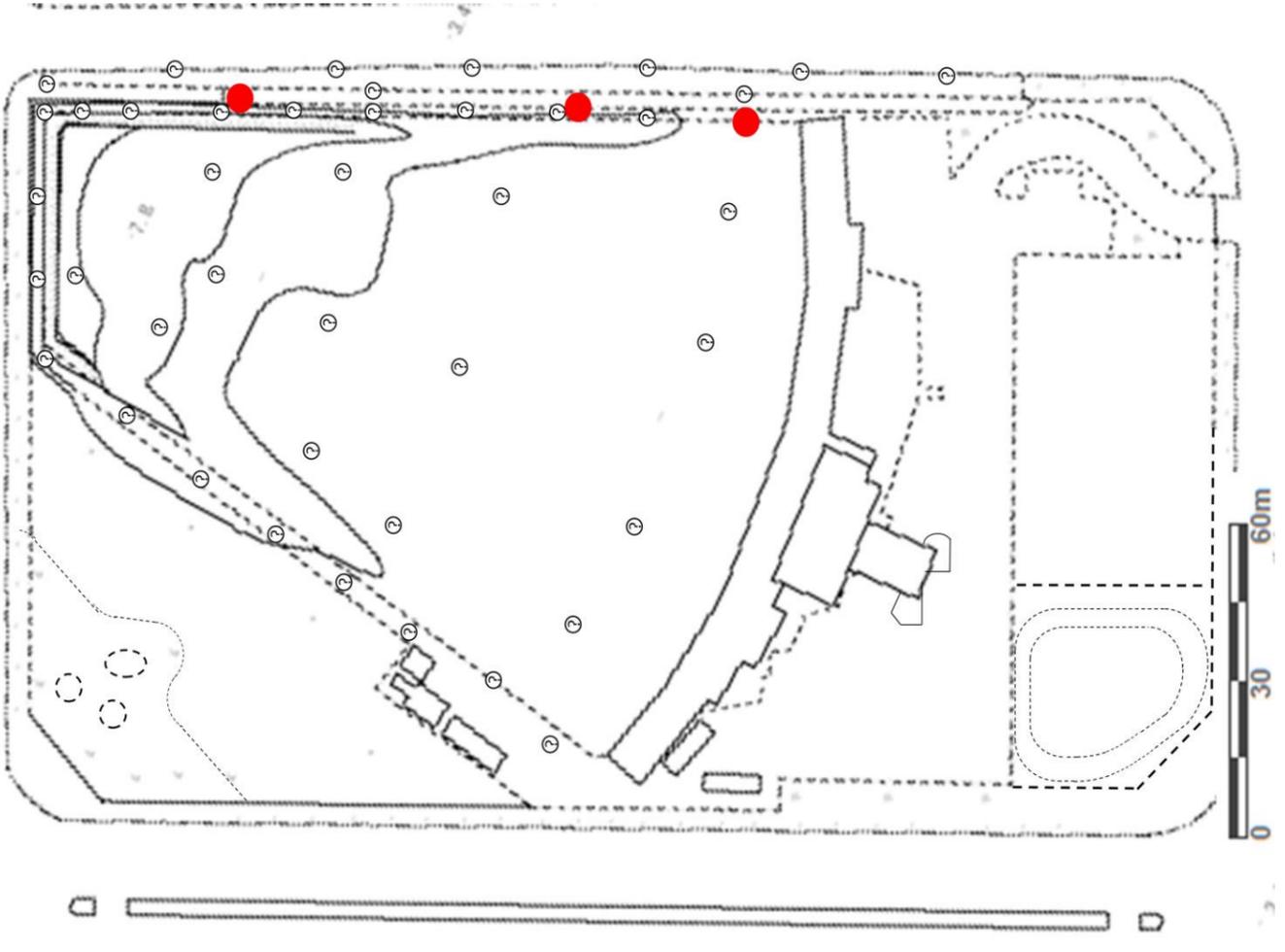
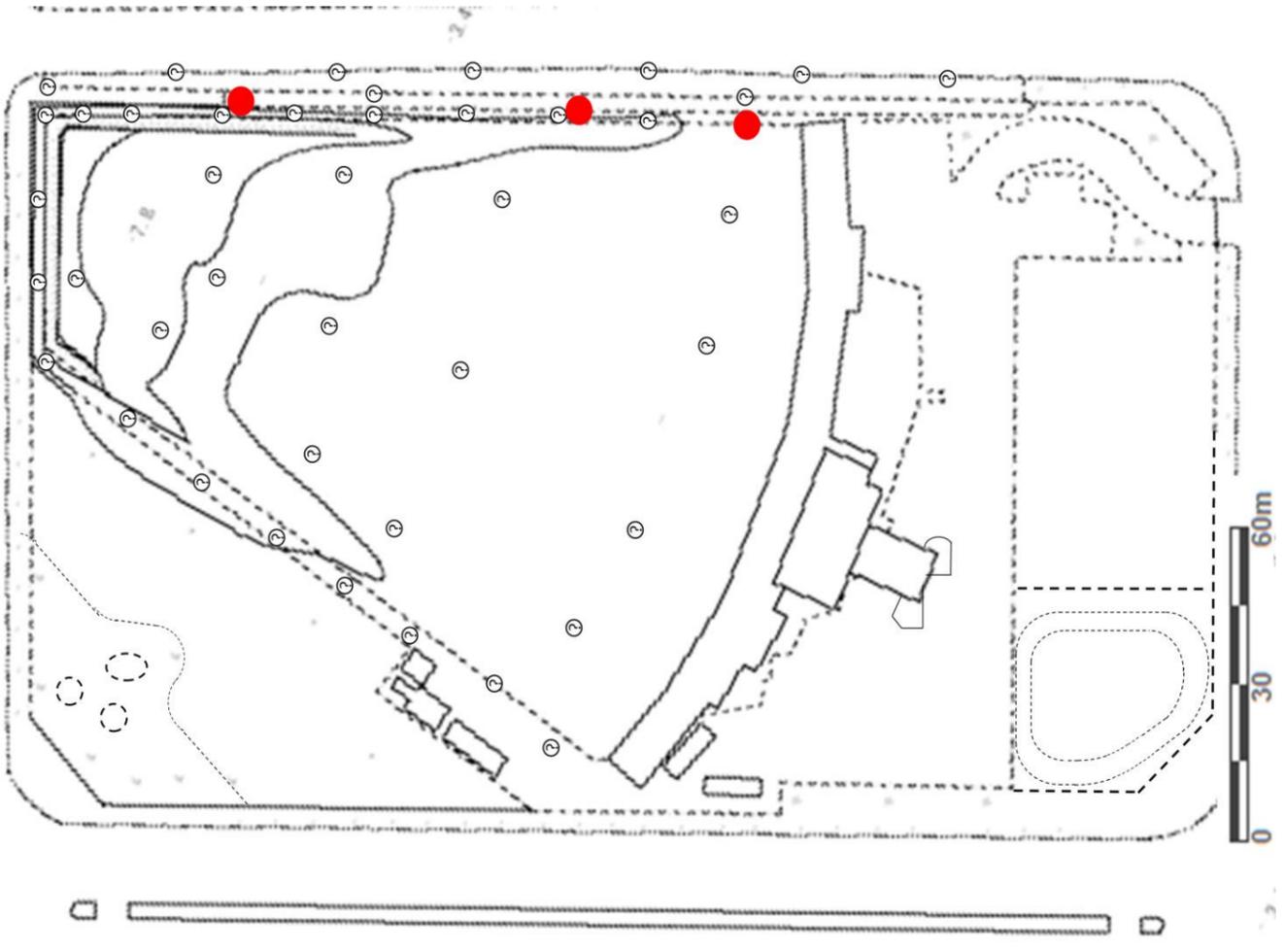
(3) G地区第2区のアルゼンチンアリの防除状況

- : アルゼンチンアリ11個体以上
- : アルゼンチンアリ1~10個体
- : 在来種のトビイロシワアリ11個体以上
- : 在来種のトビイロシワアリ1~10個体
- : アリ0個体
- : 未調査
- : 土のみ
- : IGR (顆粒状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (顆粒状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (ペースト状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (粉末状) 散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置

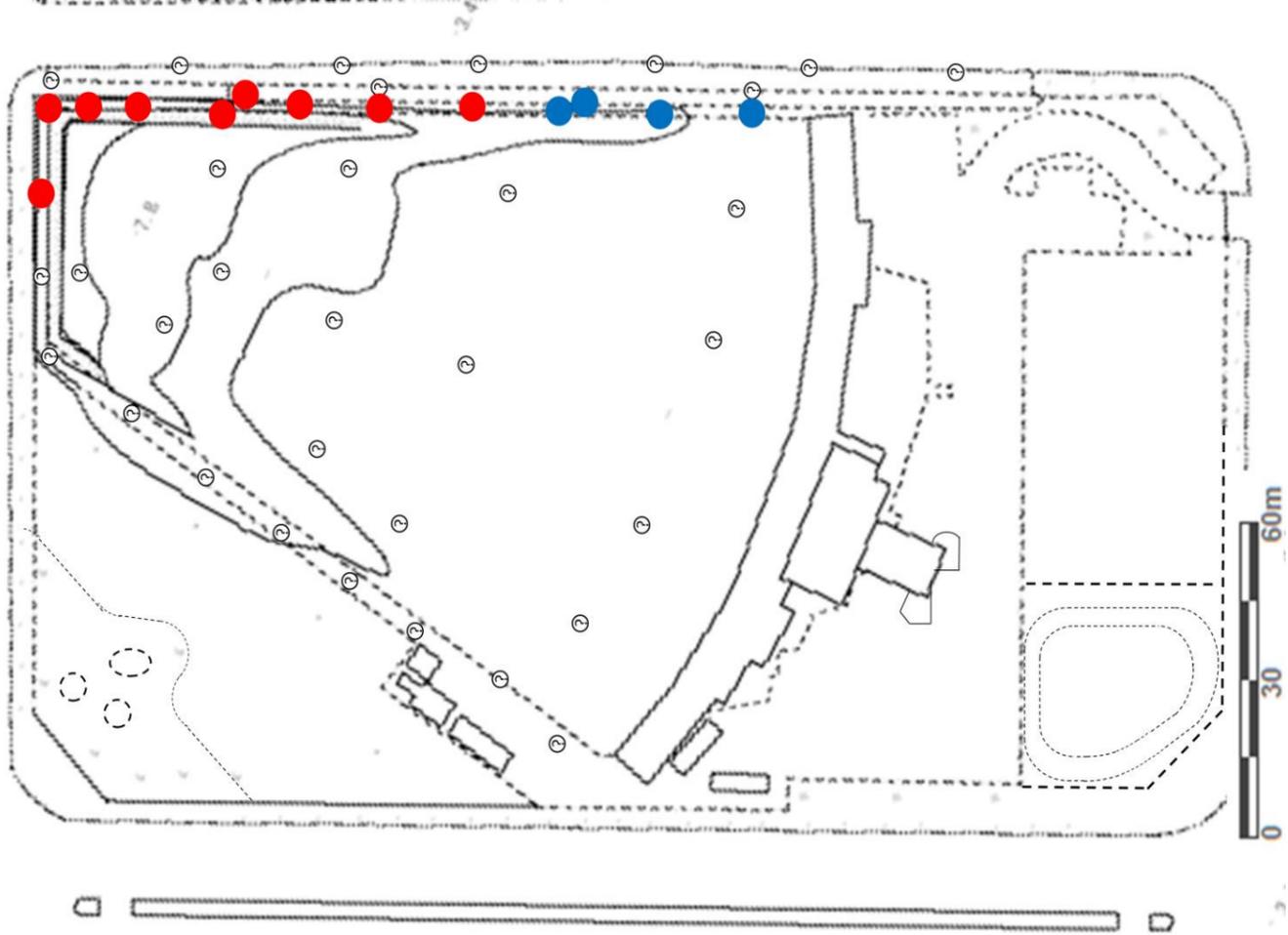
粘着トラップ調査【1回目】
5月9日

粘着トラップ調査【2回目】
6月7日



粘着トラップ調査【3回目】

7月10日

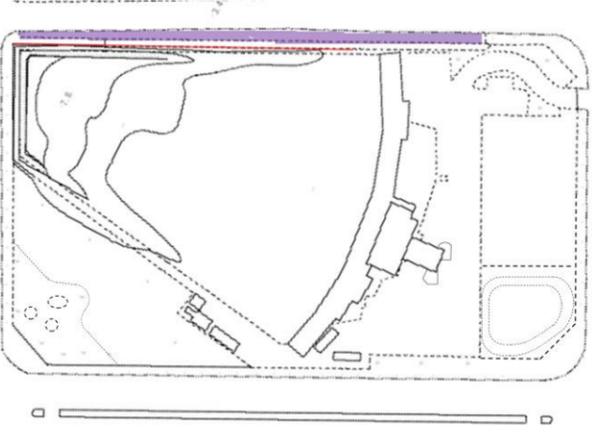


薬剤散布 7月11日



薬剤 F剤
散布量 960個
散布面積 200m²
4.8 個/m²

薬剤散布 7月12日



薬剤 E剤
散布量 700個
散布面積 750m²
0.9 個/m²

薬剤 I剤
散布量 4400g
散布面積 80m²
55.0 g/m²

薬剤散布 7月23日



薬剤 A剤
散布量 500g
散布面積 1900m²
0.3 g/m²

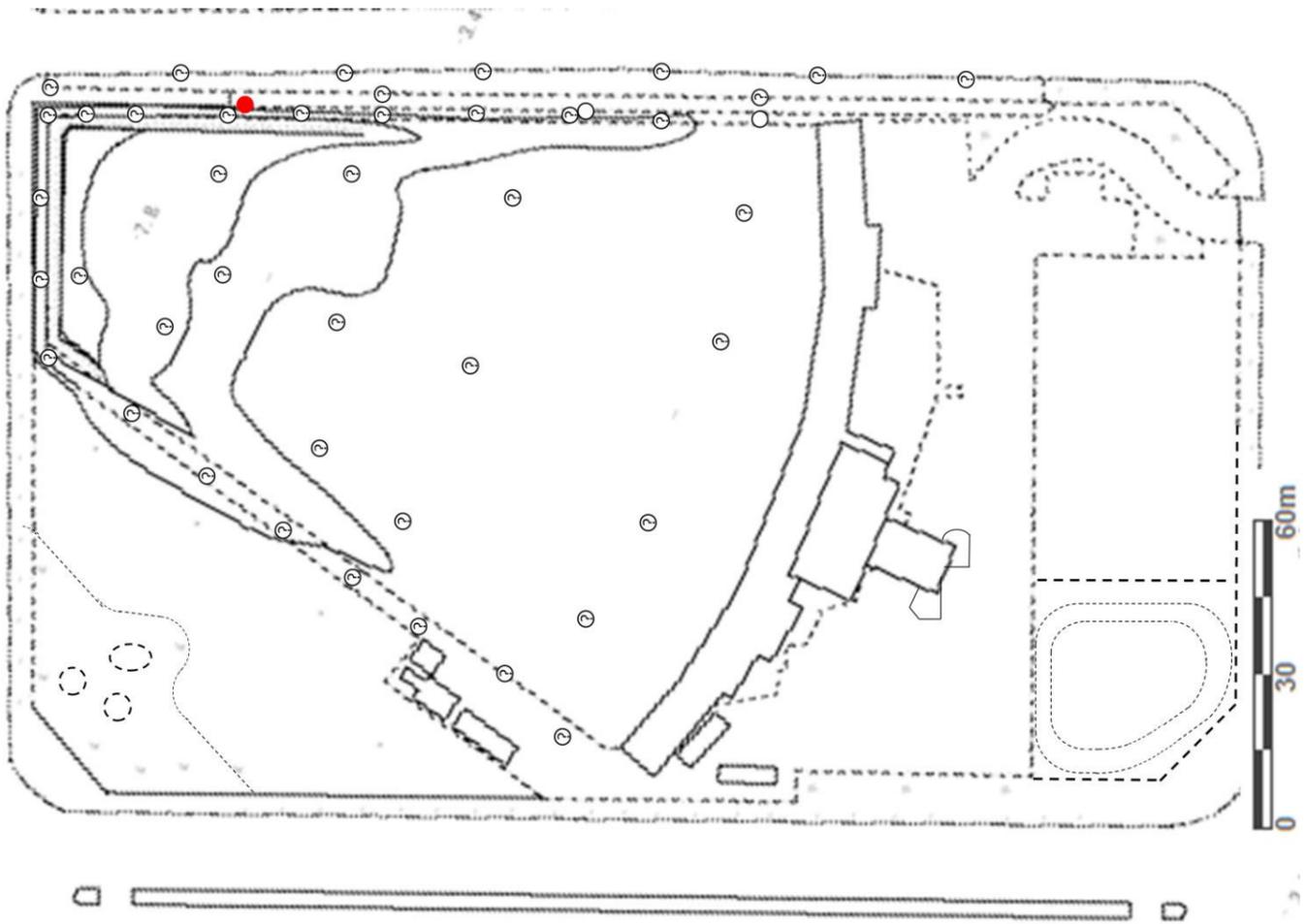
粘着トラップ調査【5回目】

8月13日



粘着トラップ調査【4回目】

7月24日





粘着トラップ調査【6回目】
8月20日

薬剤散布 8月14日

薬剤散布 9月20日

薬剤散布 9月15日



薬剤 E剤
散布量 600個
散布面積 750m²
0.8 個/m²



薬剤 F剤
散布量 960個
散布面積 315m²
3.0 個/m²



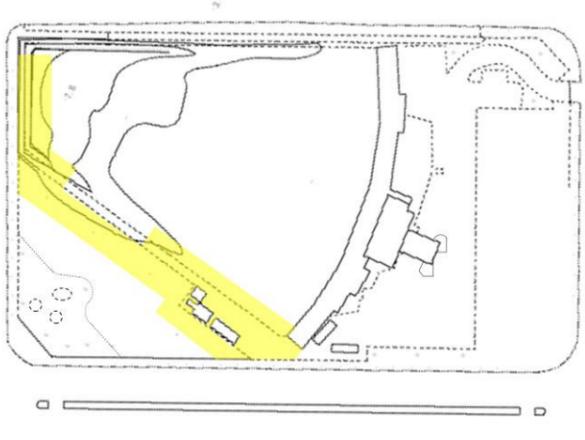
薬剤 I剤
散布量 4400g
散布面積 80m²
55.0 g/m²

粘着トラップ調査【7回目】

11月5日

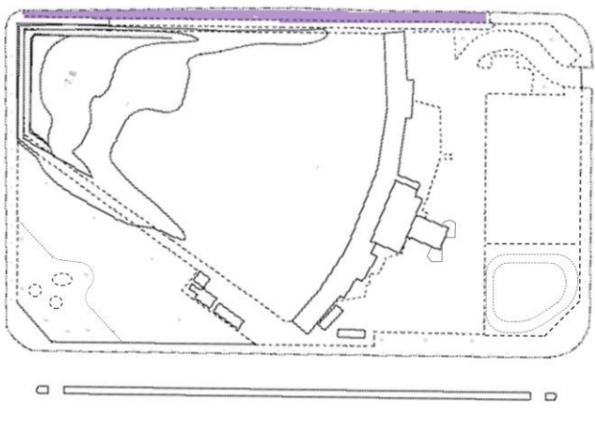


薬剤散布 10月28日



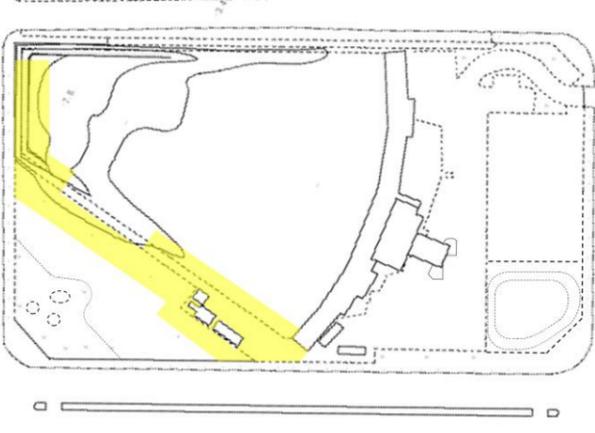
薬剤 B剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

薬剤散布 10月10日



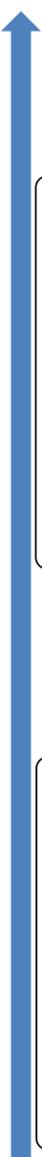
薬剤 E剤
散布量 440個
散布面積 750m²
0.6 個/m²

薬剤散布 9月28日



薬剤 B剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

粘着トラップ調査(防除効果の持続性確認)
【2019年度予定】
 初夏と秋季



薬剤散布 11月13日

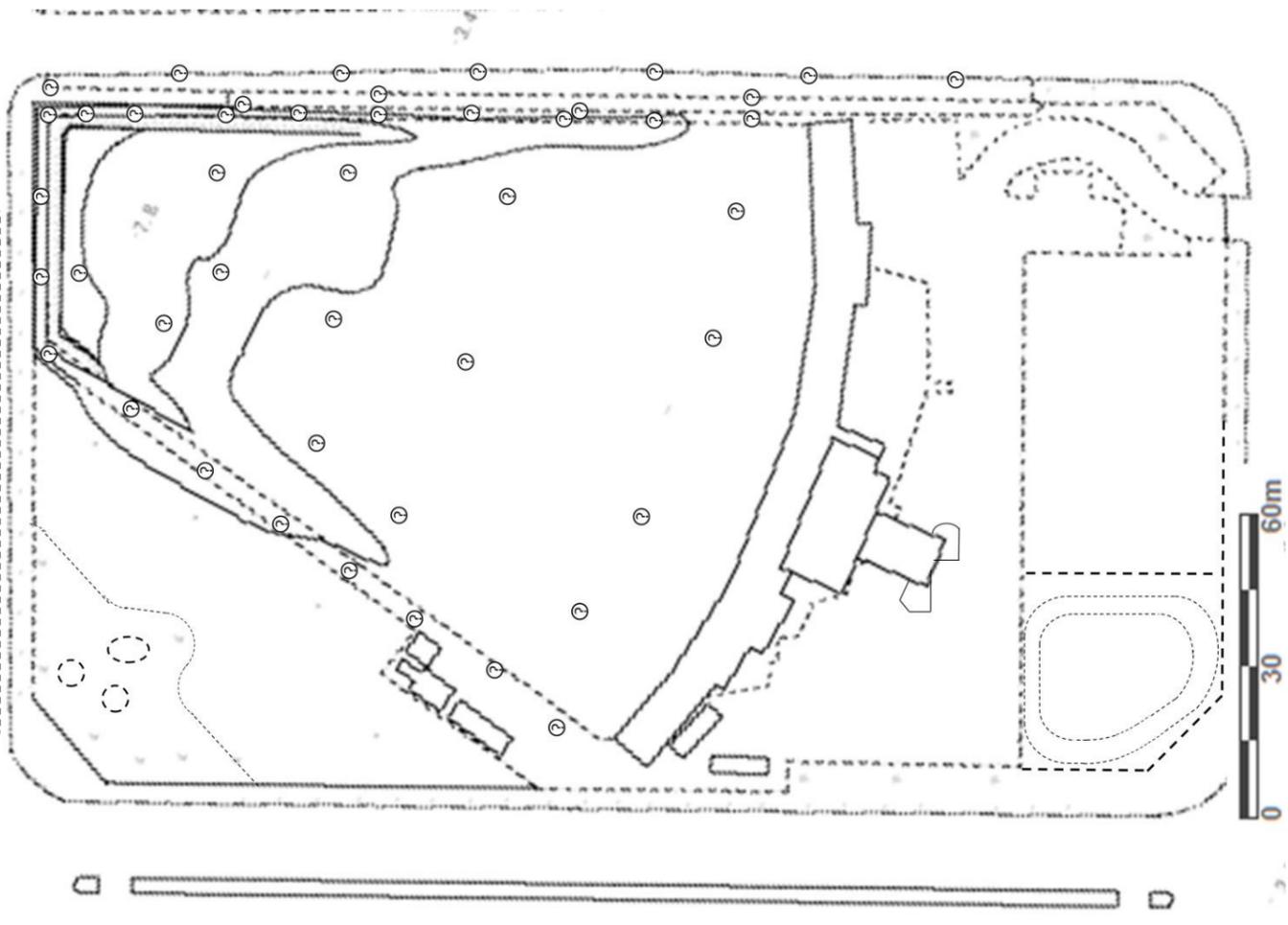


薬剤 A剤
 散布量 1000g
 散布面積 180m²
 5.6 g/m²

薬剤散布 11月14日



薬剤 A剤
 散布量 1000g
 散布面積 90m²
 11.1 g/m²



10. G地区第3区の防除試験

(1) 土地の状況

状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 民間施設の敷地の北側と西側の歩道が植栽帯・ 整備・管理された庭園・ 西側の中央分離帯	

(2) G地区第3区の防除試験から得られた知見

薬剤の散布時期が9月～10月と遅い場合でも、薬剤を散布することで、アルゼンチンアリの生息分布が縮小すること

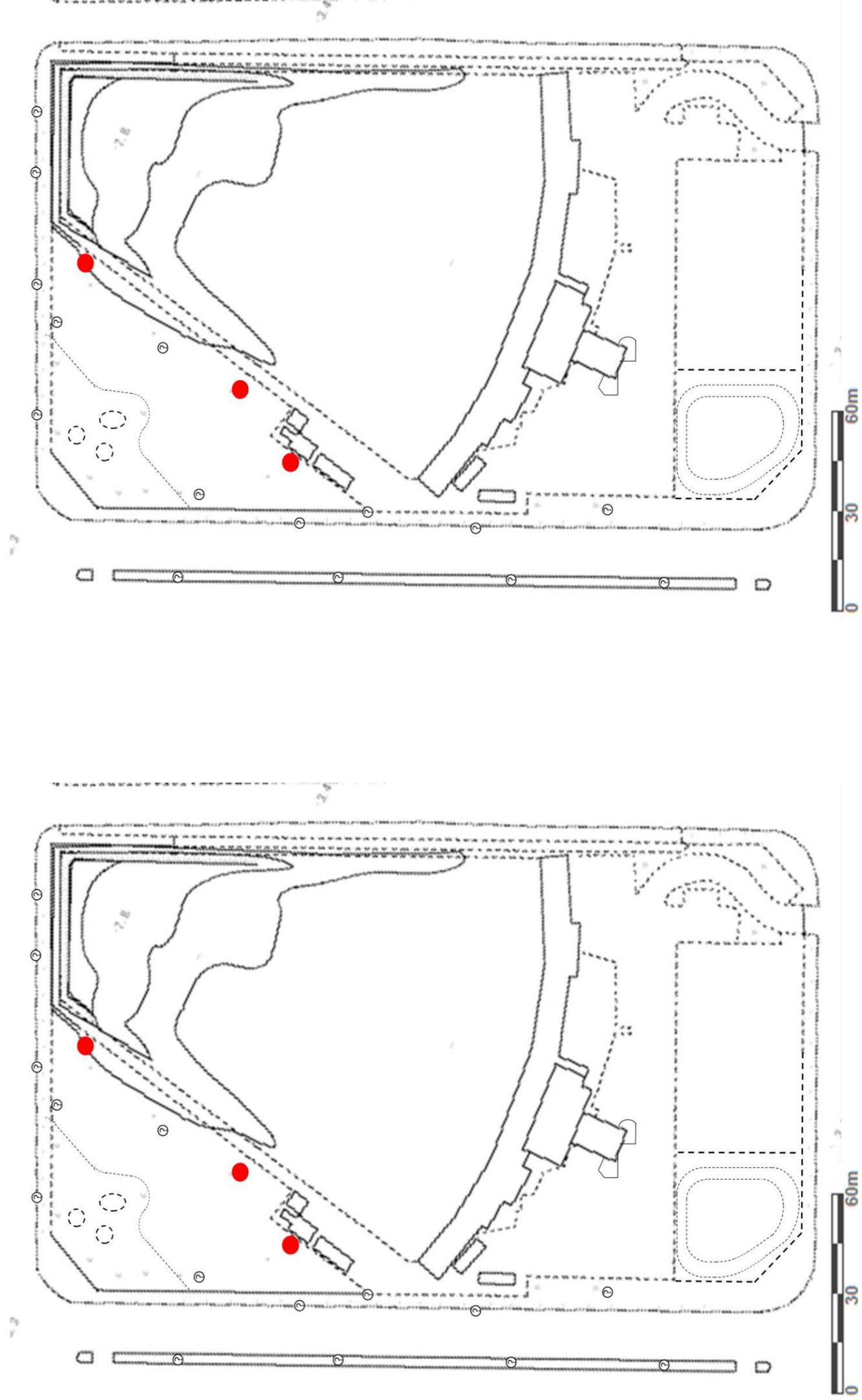
(3) G地区第3区のアレルギーアリの防除状況

- : アレルギーアリの個体数11個体以上
- : アレルギーアリの個体数1~10個体
- : 在来種のアレルギーアリの個体数11個体以上
- : 在来種のアレルギーアリの個体数1~10個体
- : アリの個体
- ⊙ : 未調査
- : 土のみ
- : IGR (顆粒状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (顆粒状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (粉末状) 散布範囲
- : 神経伝達阻害剤 (液状) 散布範囲

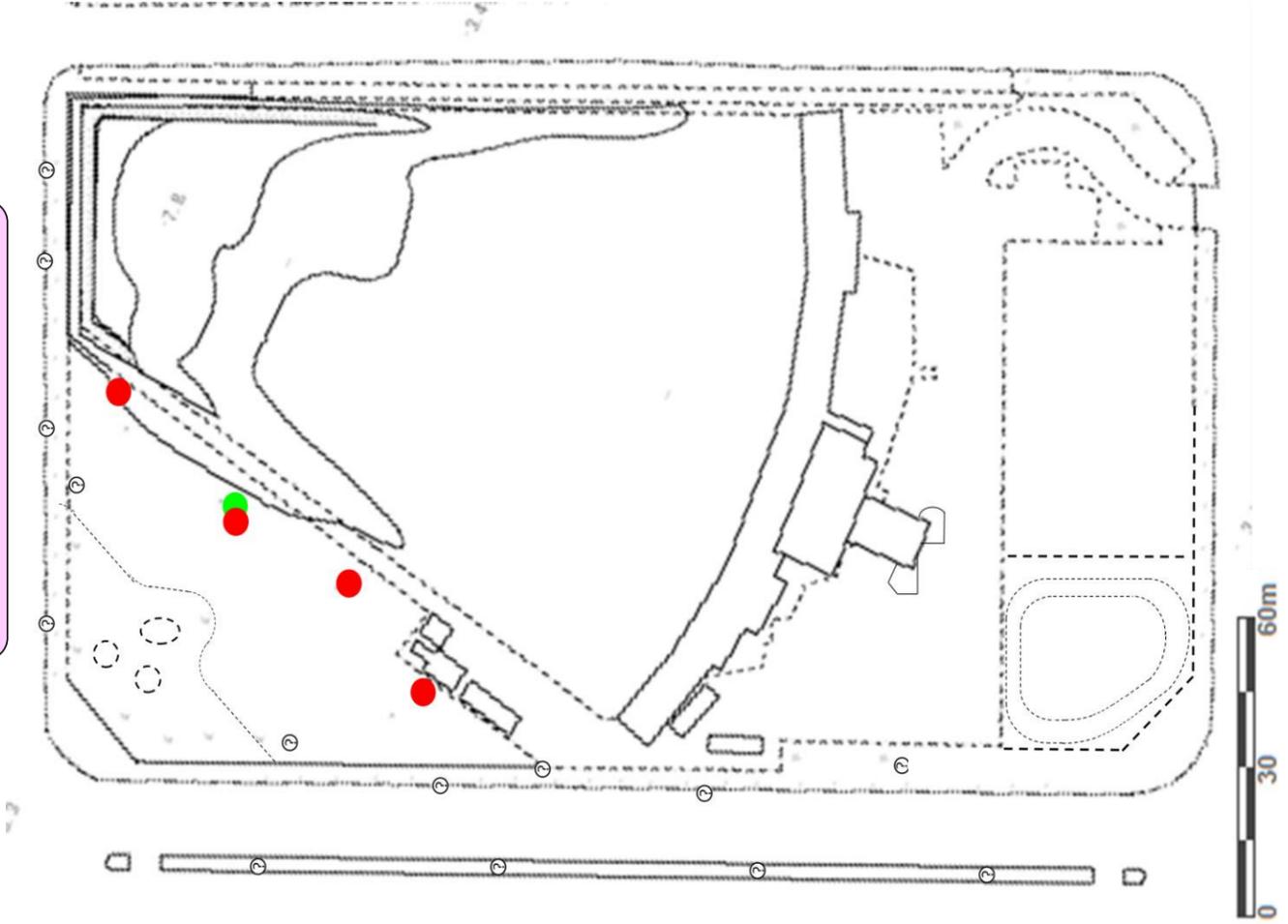
※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置

粘着トラップ調査 【1回目】
5月9日

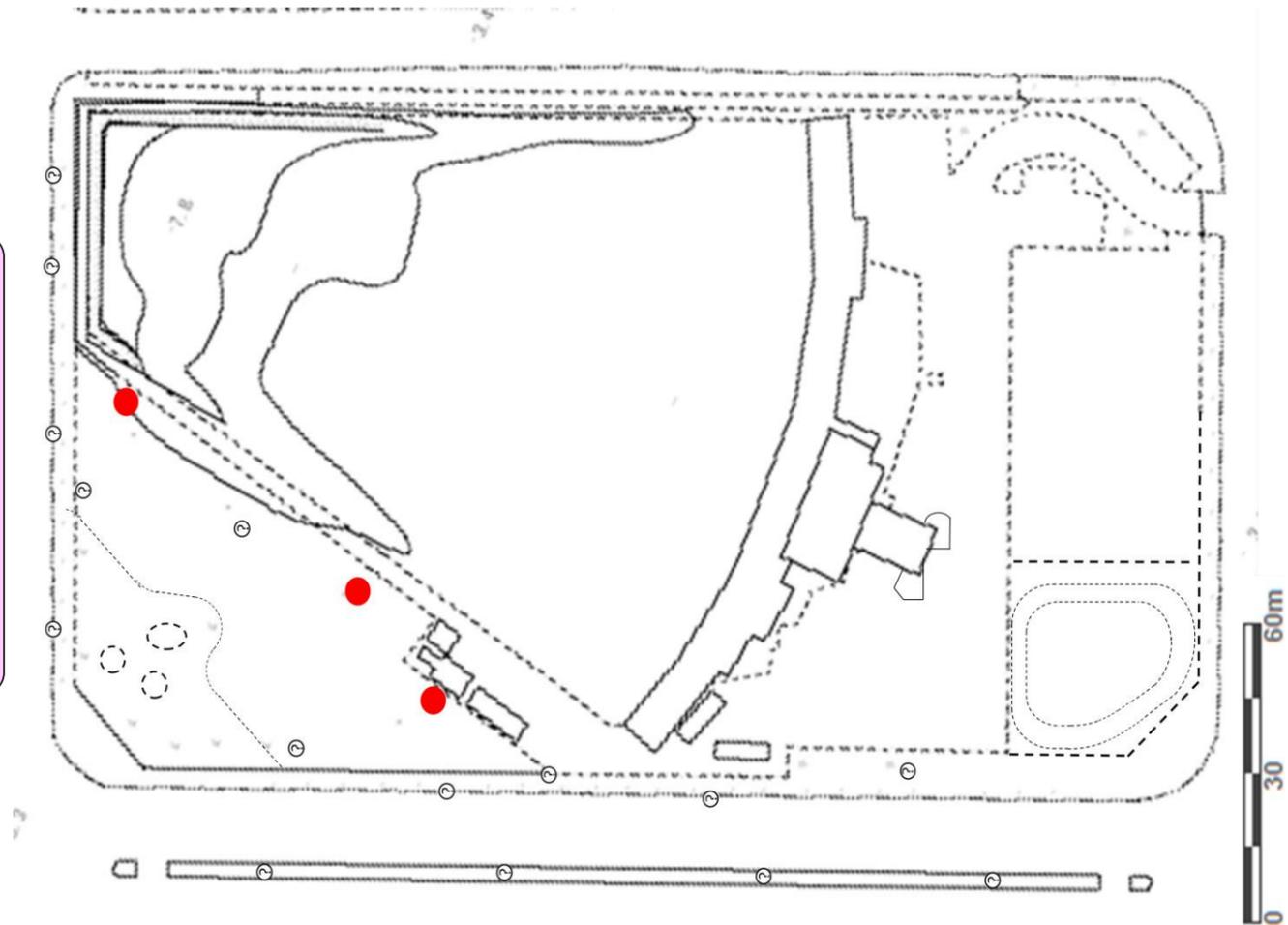
粘着トラップ調査 【2回目】
6月7日



粘着トラップ調査 【4回目】
8月20日

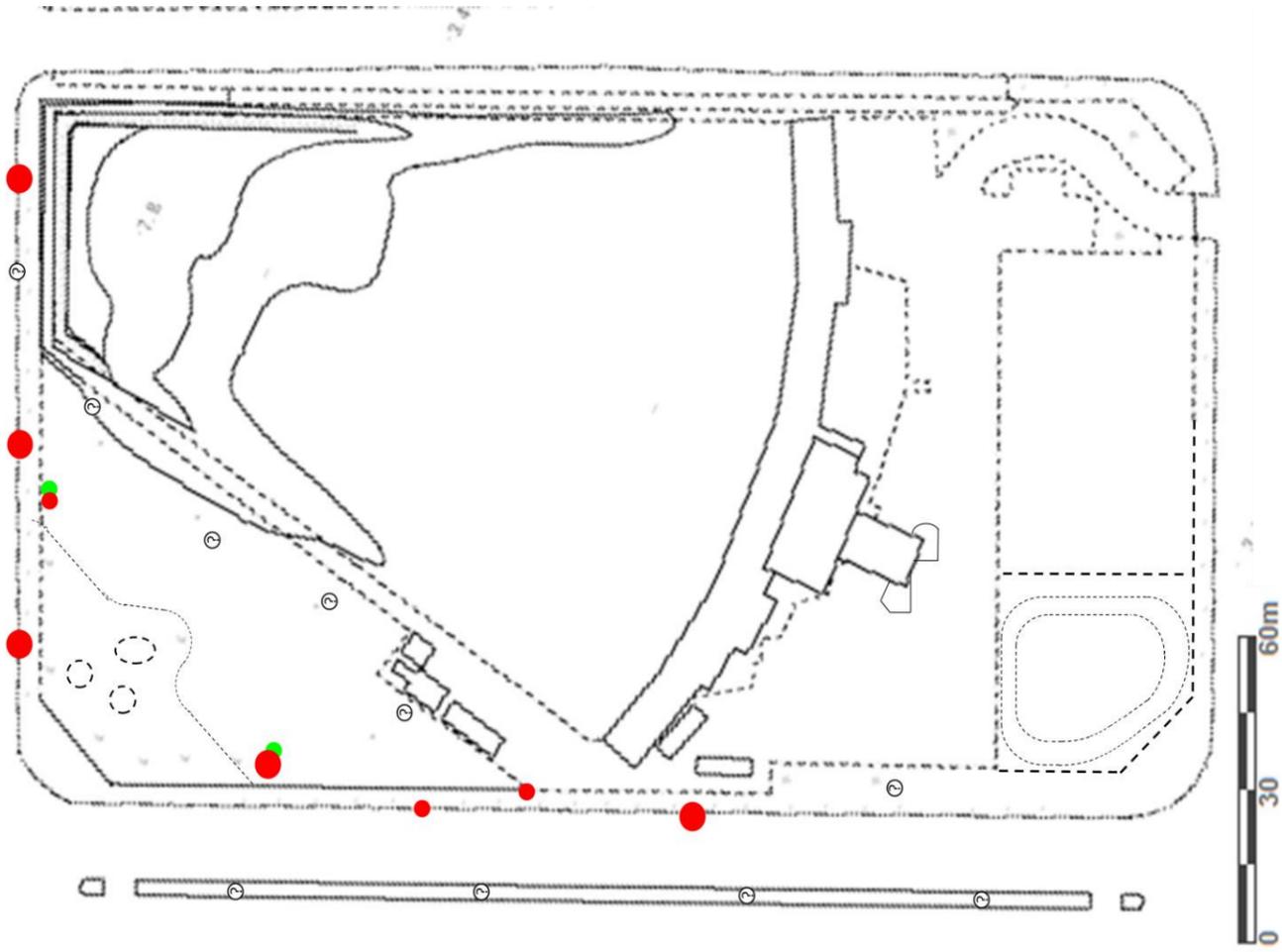


粘着トラップ調査 【3回目】
7月24日

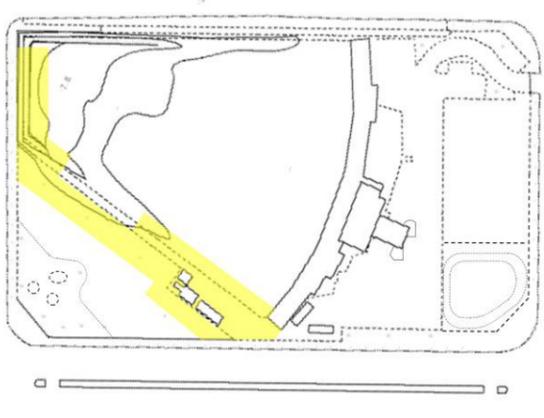


粘着トラップ調査【5回目】

9月18日

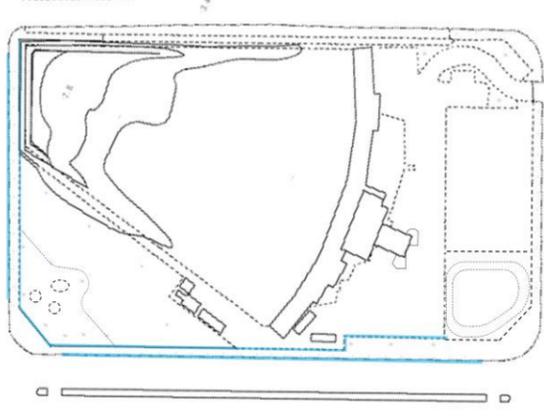


薬剤散布 9月28日



薬剤 B剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

薬剤散布 9月25日



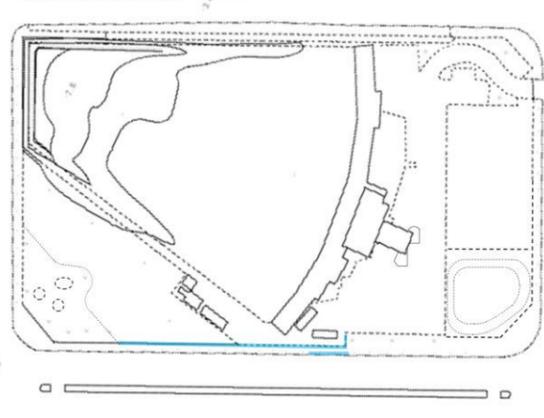
薬剤 G剤
散布量 32L
散布面積 630m²
0.1 L/m²

薬剤散布 9月25日



薬剤 E剤
散布量 360個
散布面積 630m²
0.6 個/m²

薬剤散布 10月12日



薬剤 H剤
散布量 8L
散布面積 90m²
0.1 L/m²

薬剤散布 10月3日



薬剤 F剤
散布量 300個
散布面積 400m²
0.8 個/m²

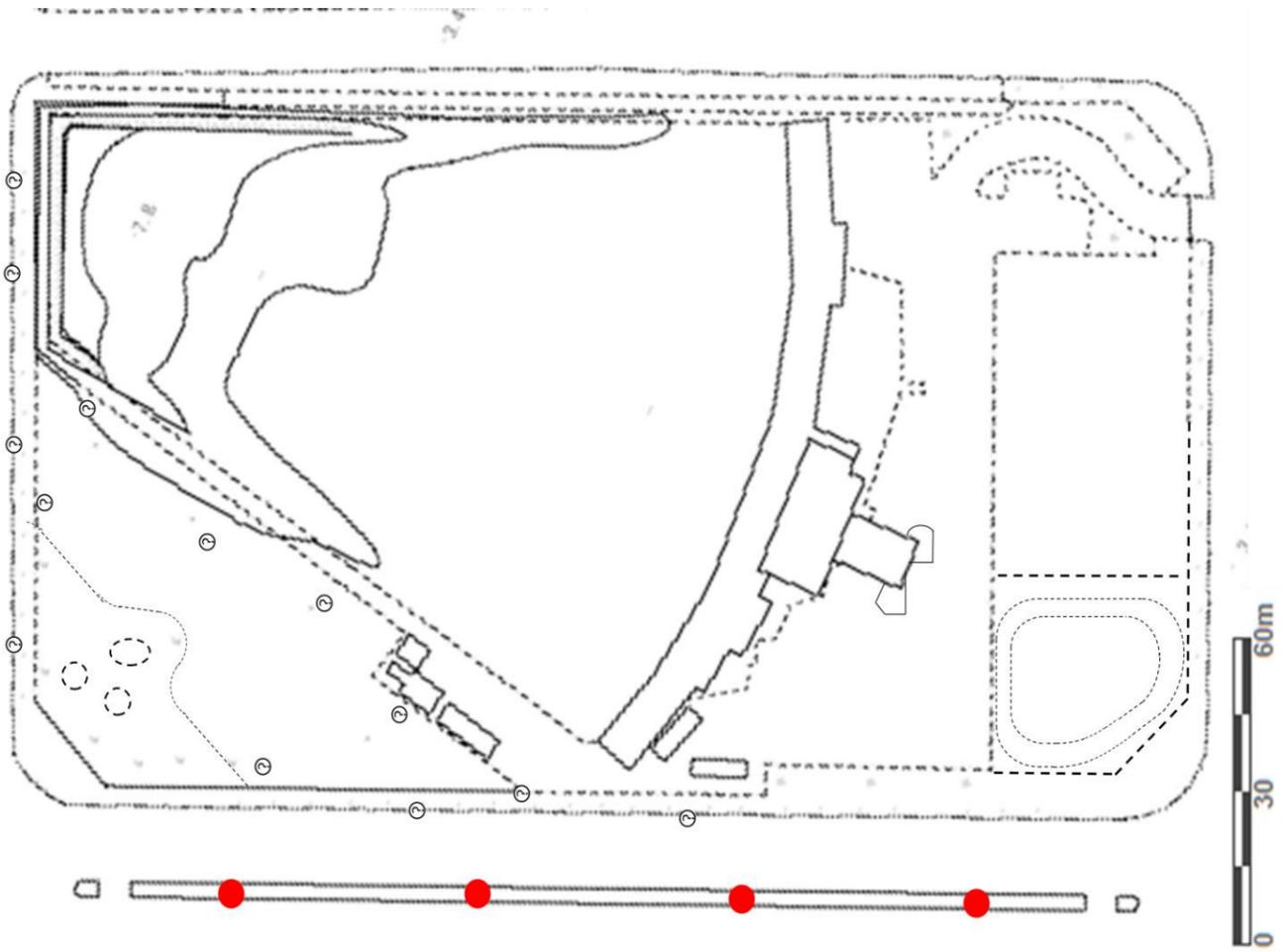
薬剤散布 10月12日



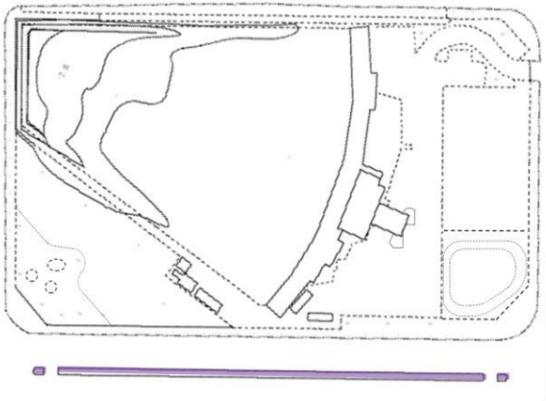
薬剤 F剤 240個
散布量 1120m²
散布面積 100m²
0.2 個/m²
E剤(歩道植栽のみ)
190個
散布面積 100m²
1.9 個/m²

粘着トラップ調査 【6回目】

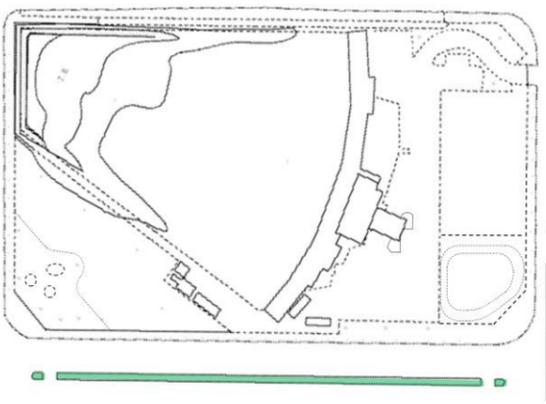
10月12日



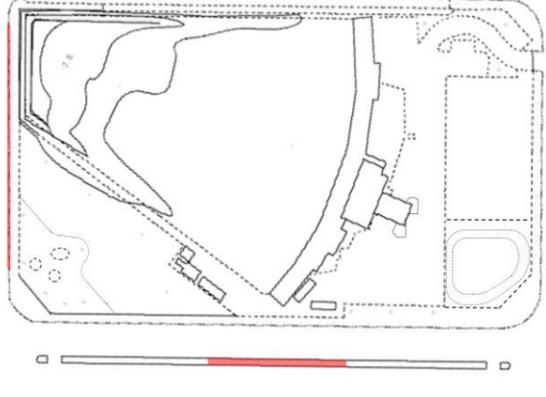
薬剤散布 10月15日



薬剤 E剤
散布量 600個
散布面積 520m²
1.2 個/m²

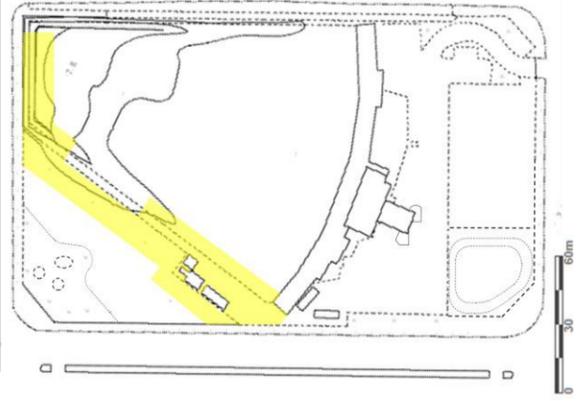


薬剤 D剤
散布量 2000g
散布面積 520m²
3.8 g/m²



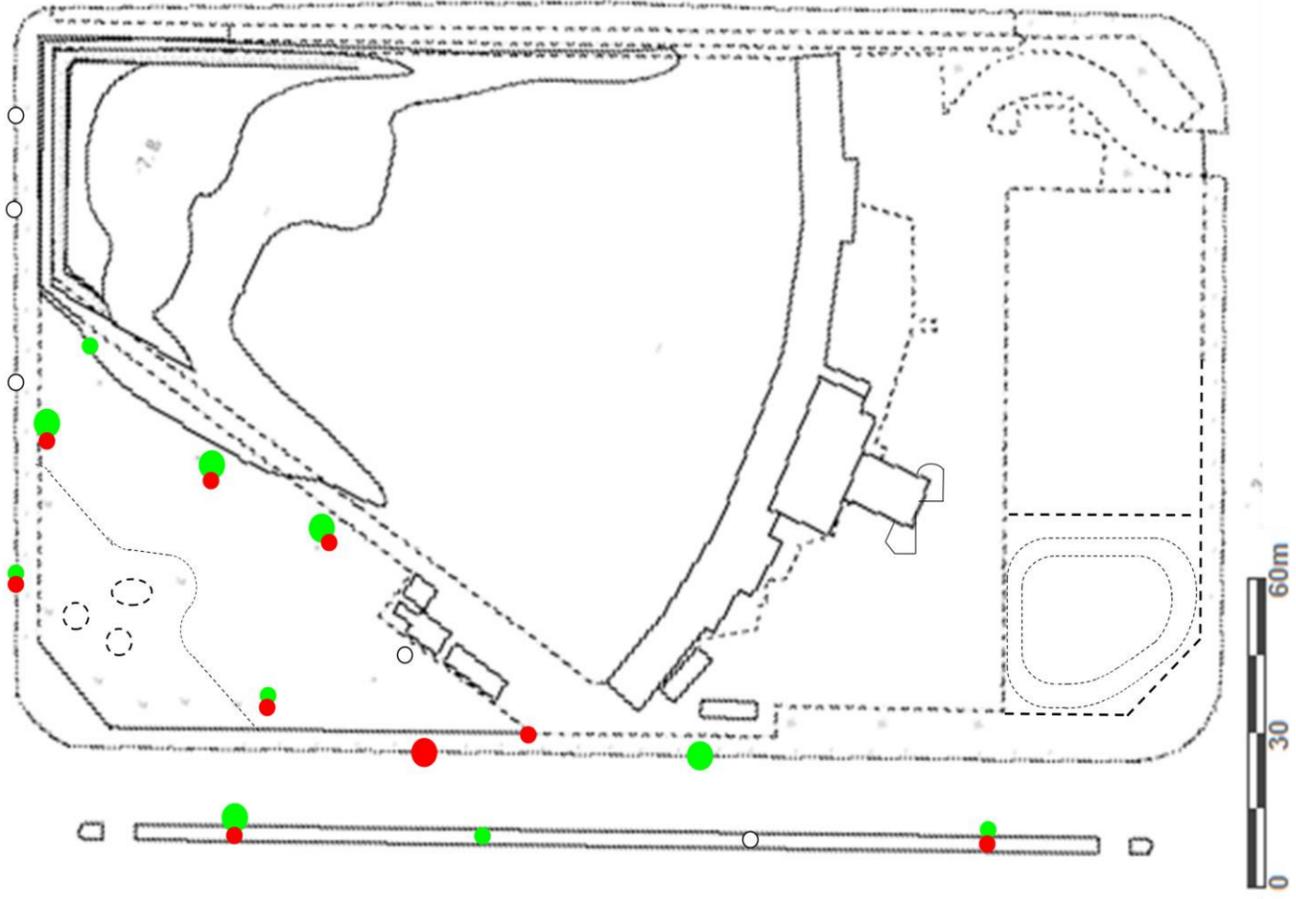
薬剤 I剤
散布量 4400g
散布面積 300m²
14.7 g/m²

薬剤散布 10月28日



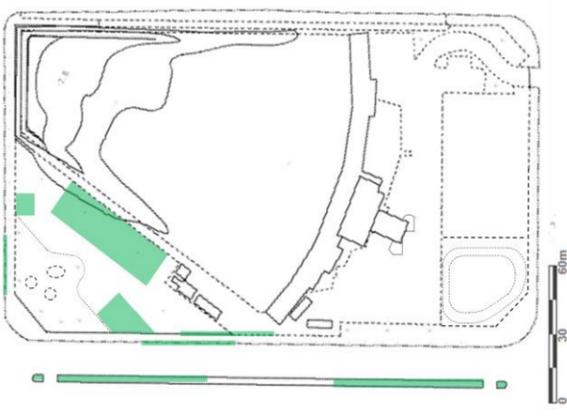
薬剤 B剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

粘着トラップ調査 【7回目】
11月5日



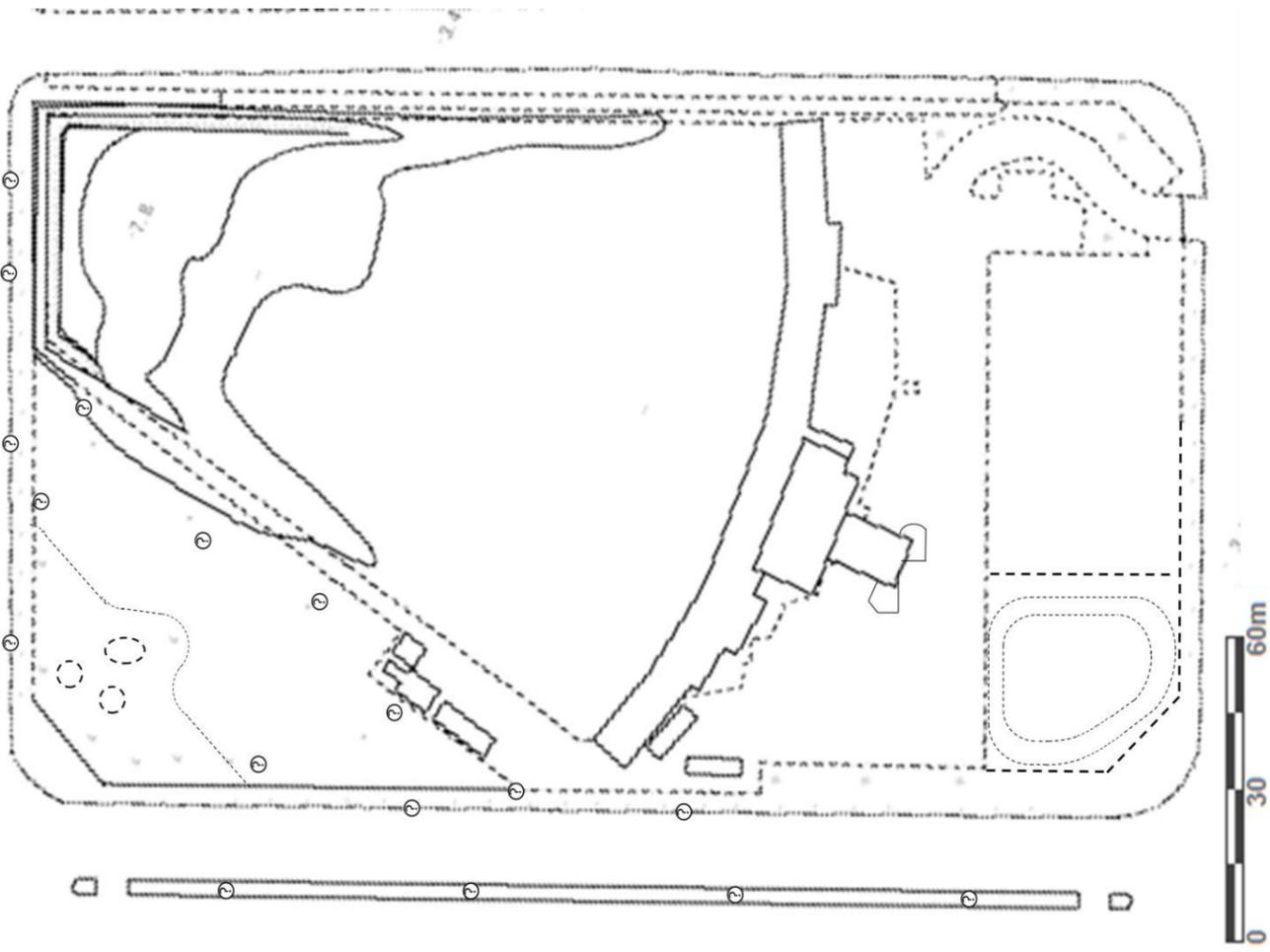
↑

薬剤散布 11月13日



薬剤 A剤 2000g
散布量 1020m²
散布面積 2.0 g/m²

粘着トラップ調査(防除効果の持続性確認)
【2019年度予定】
初夏と秋季

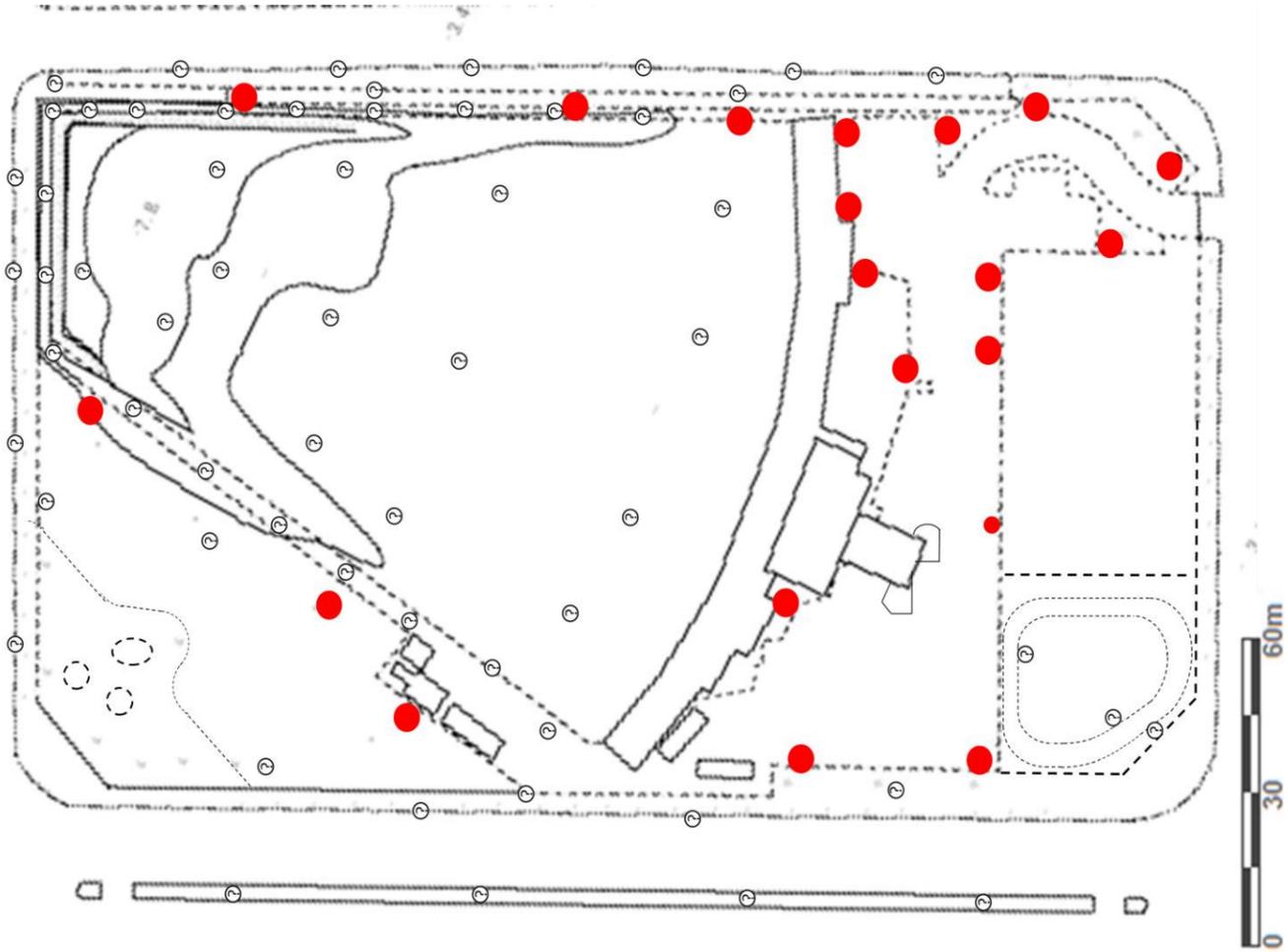


【参考①】G地区全体のアルゼンチンアリの防除状況

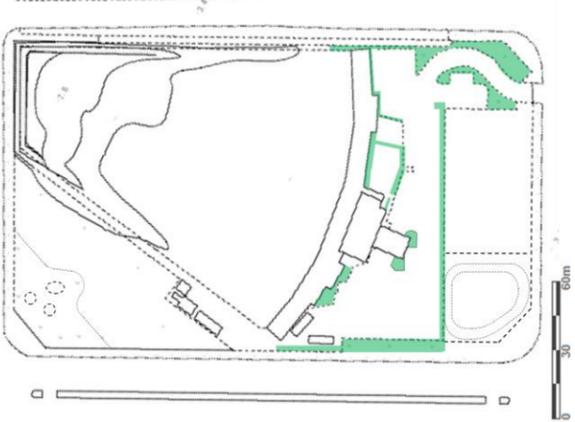
- : アルゼンチンアリ11個体以上
- : アルゼンチンアリ1~10個体
- : 在来種のアリ11個体以上
- : 在来種のアリ1~10個体
- : アリ0個体
- ⊙ : 未調査
- : 土のみ
- (赤) : 神経伝達阻害剤 (粉末状) 散布範囲
- (青) : 神経伝達阻害剤 (液状) 散布範囲
- (緑) : IGR (顆粒状) 散布範囲
- (黄) : 神経伝達阻害剤 (顆粒状) 散布範囲
- (紫) : 神経伝達阻害剤 (ペースト状) 散布範囲

※粘着トラップ調査：誘引剤を使用して、約24時間設置

粘着トラップ調査【1回目】
5月9日

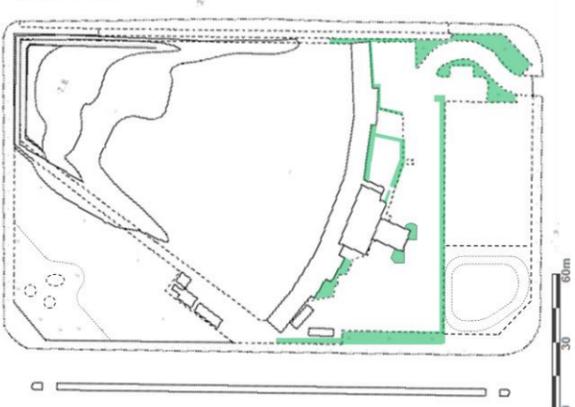


薬剤散布 5月9日



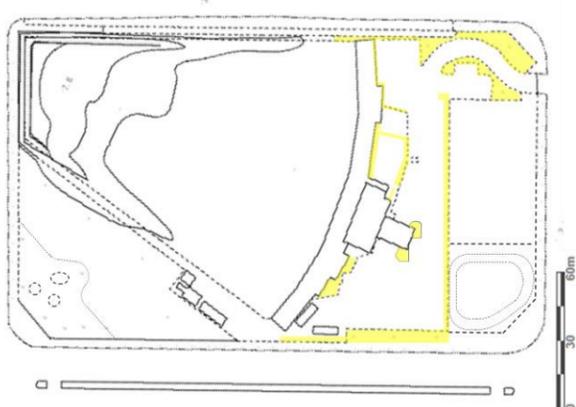
薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

薬剤散布 5月16日



薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

薬剤散布 5月24日



薬剤 B剤
散布量 2100g
散布面積 1260m²
1.7 g/m²

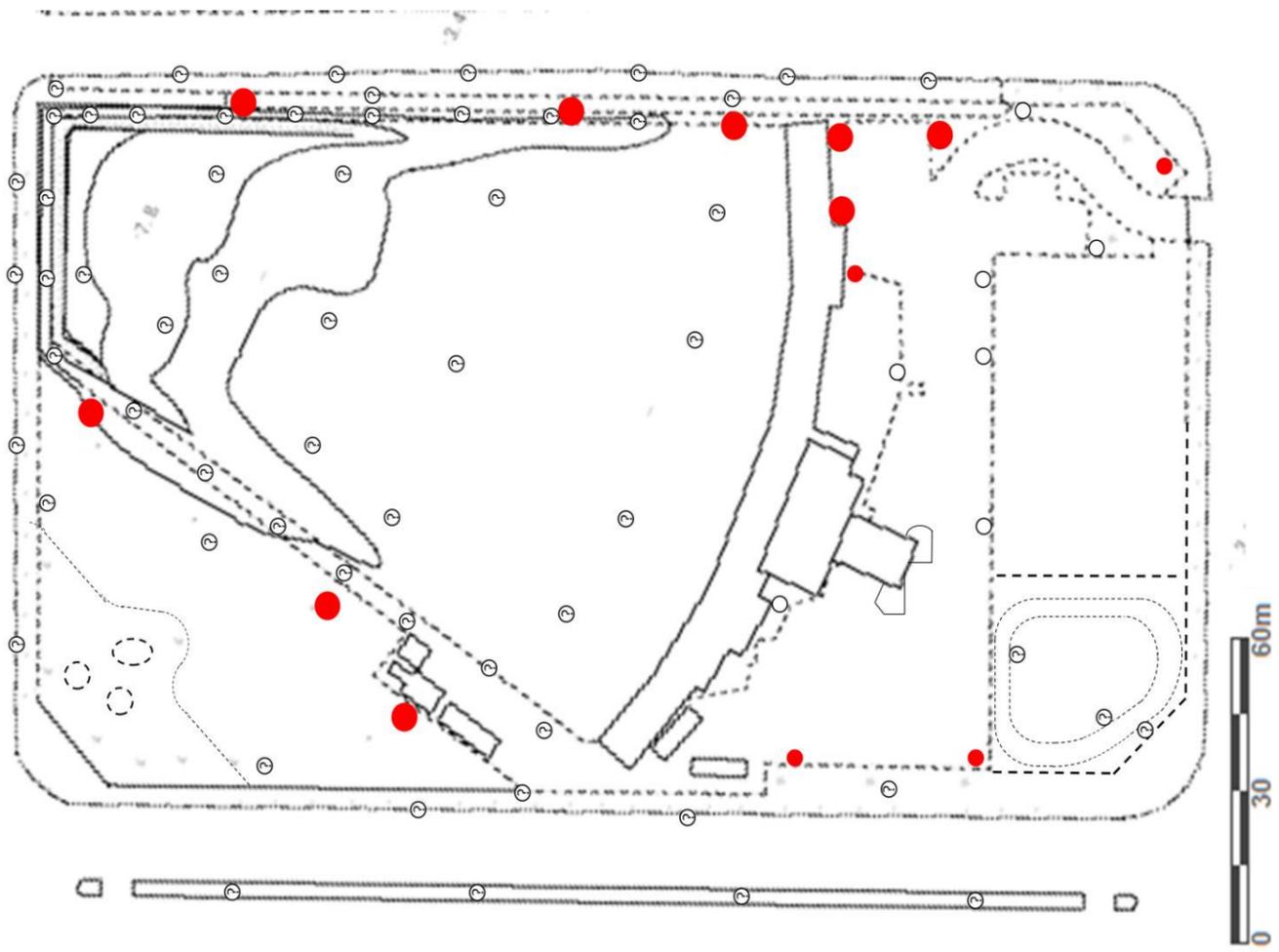
薬剤散布 6月2日



薬剤 B剤
散布量 2100g
散布面積 1260m²
1.7 g/m²

粘着トラップ調査【2回目】

6月7日



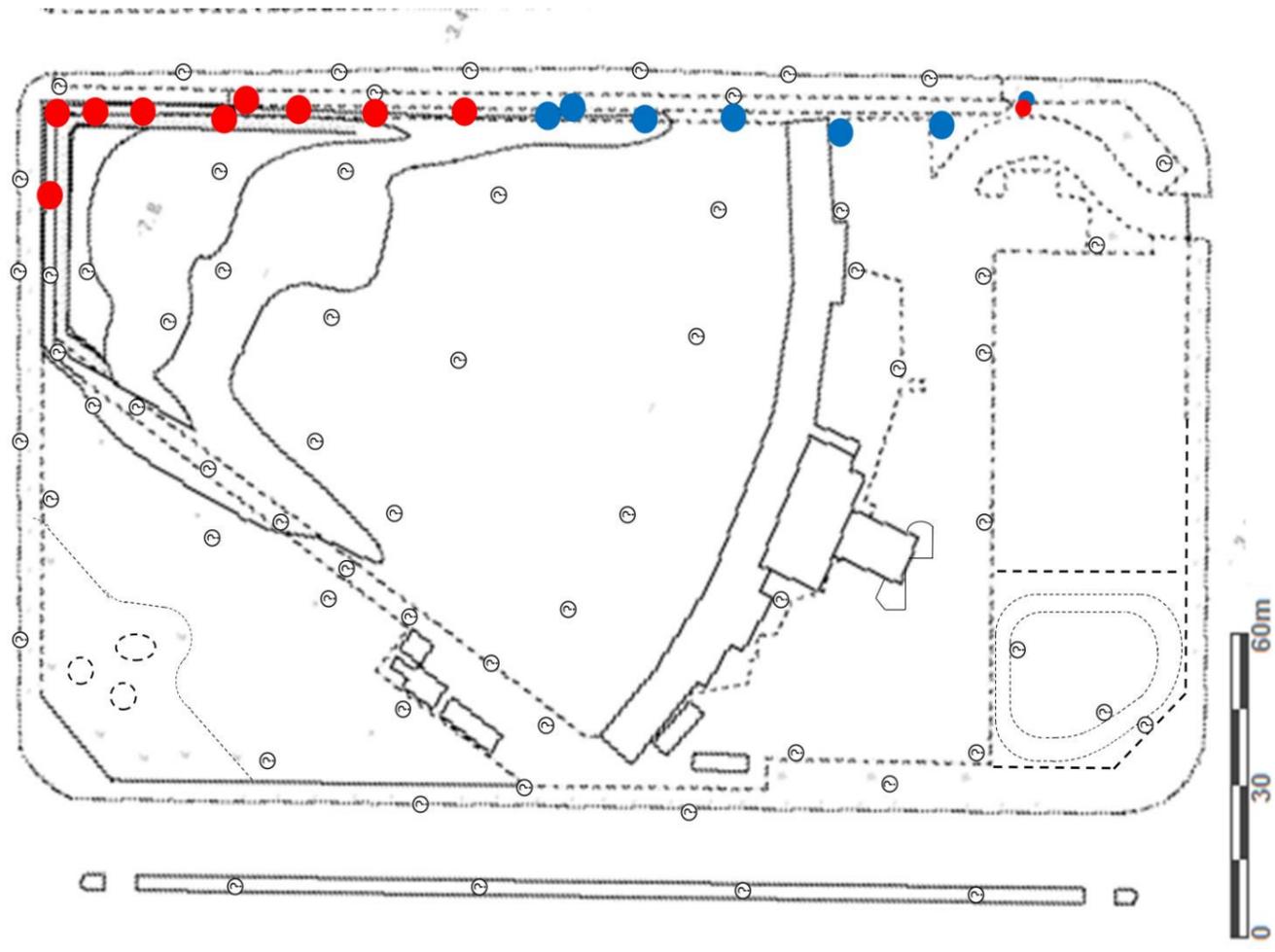
薬剤散布 6月16日



薬剤 A剤
散布量 2000g
散布面積 1260m²
1.6 g/m²

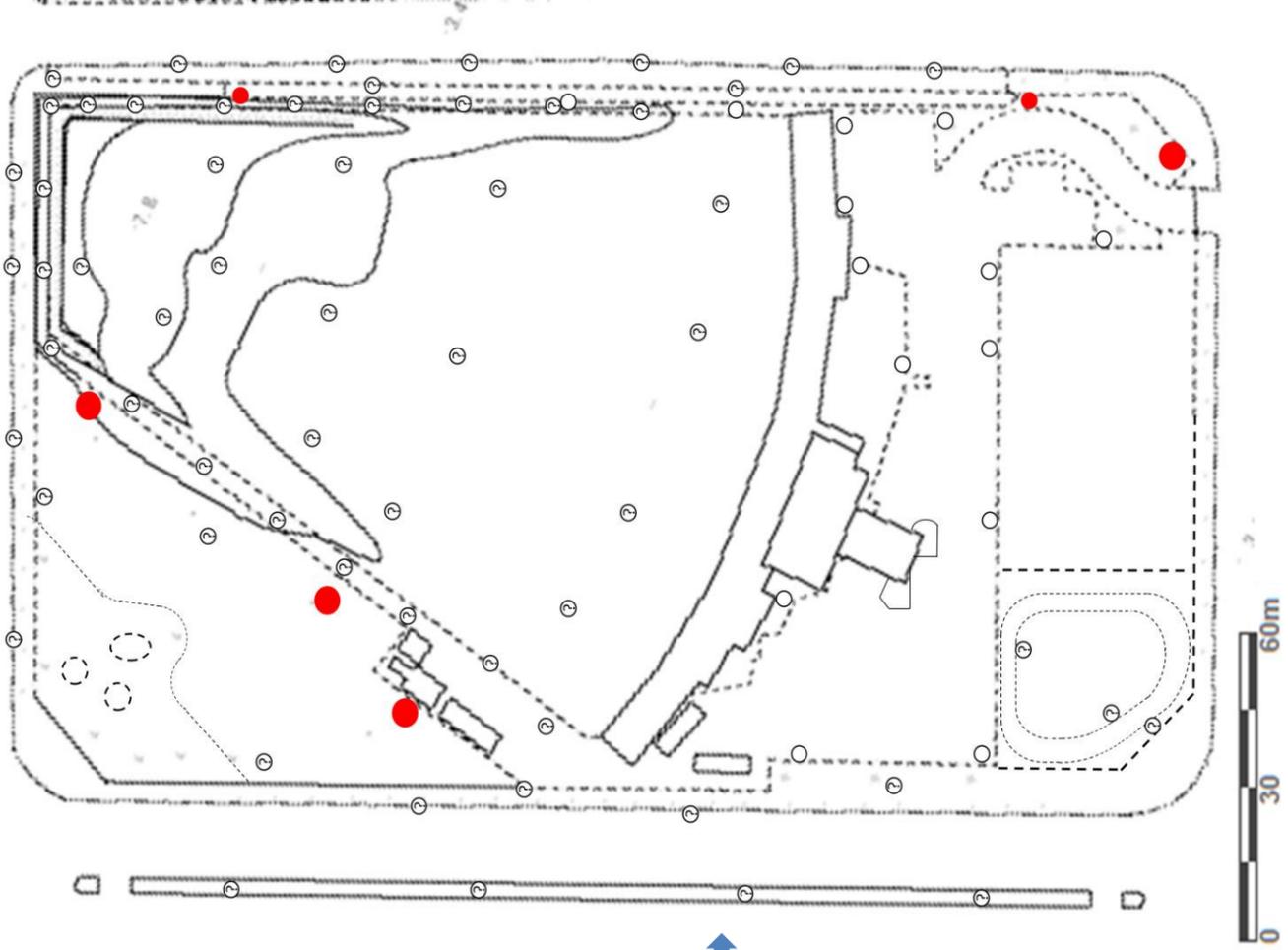
粘着トラップ調査【3回目】

7月10日

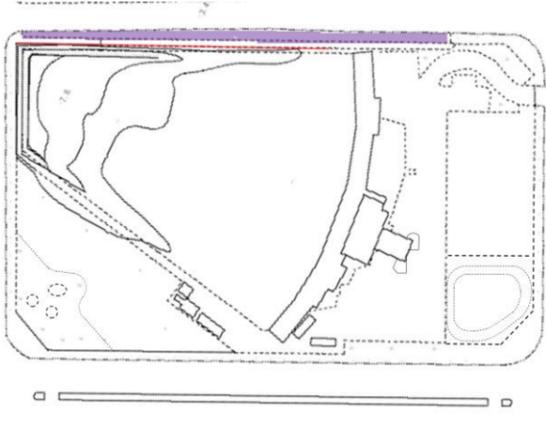


粘着トラップ調査【4回目】

7月24日



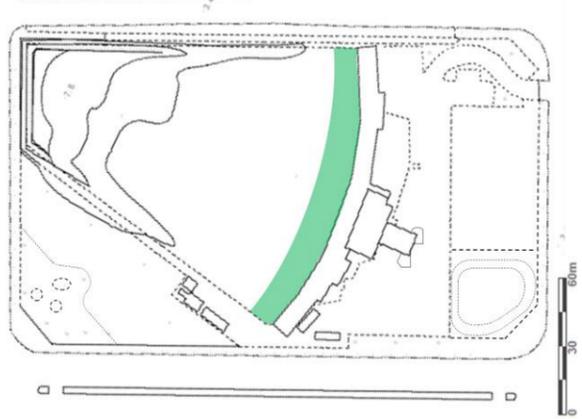
薬剤散布 7月12日



薬剤 E 剤
散布量 700個
散布面積 750m²
0.9 個/m²

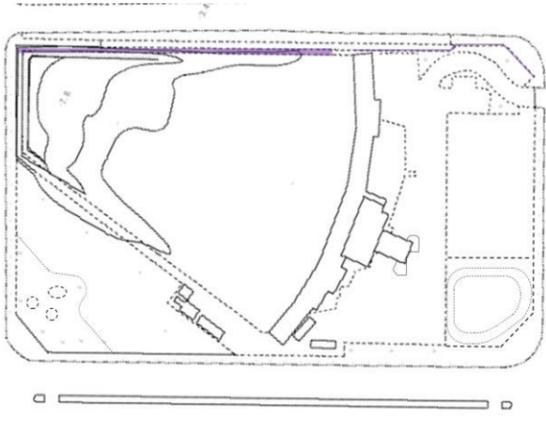
薬剤 I 剤
散布量 4400g
散布面積 80m²
55.0 g/m²

薬剤散布 7月23日



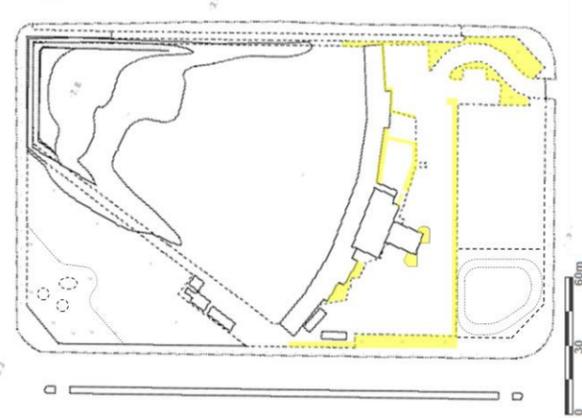
薬剤 A 剤
散布量 500g
散布面積 1900m²
0.3 g/m²

薬剤散布 7月11日



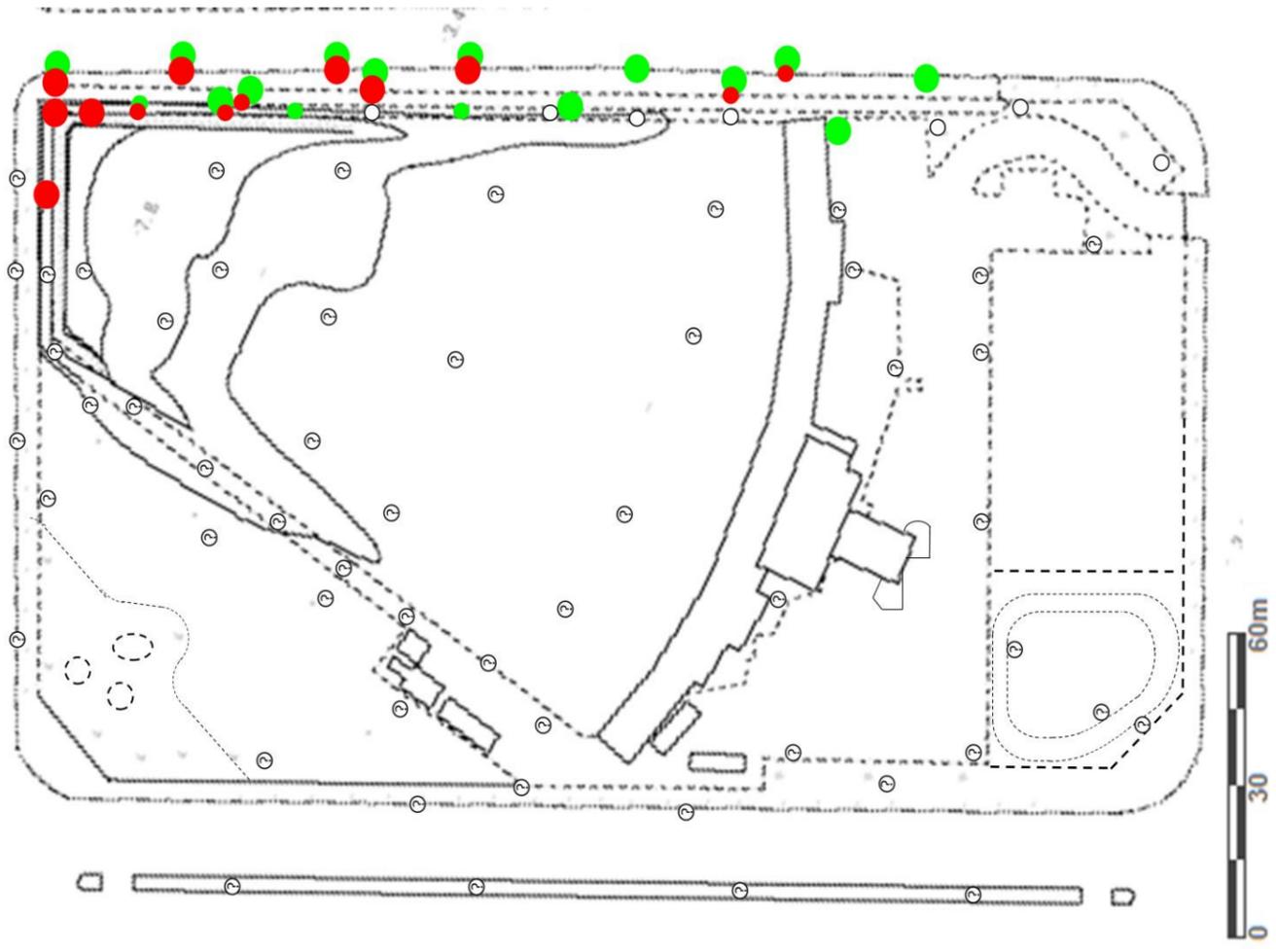
薬剤 F 剤
散布量 960個
散布面積 200m²
4.8 個/m²

薬剤散布 7月14日

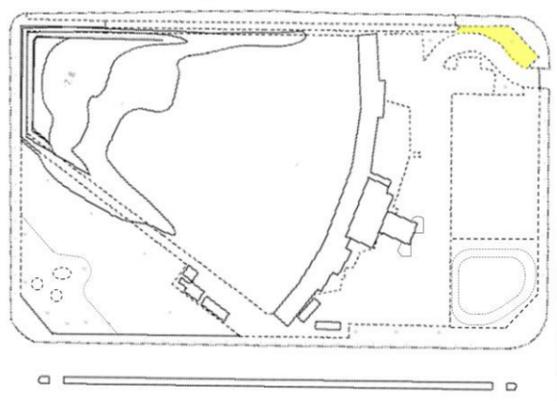


薬剤 B 剤
散布量 2400g
散布面積 1260m²
1.9 g/m²

粘着トラップ調査【5回目】
8月13日

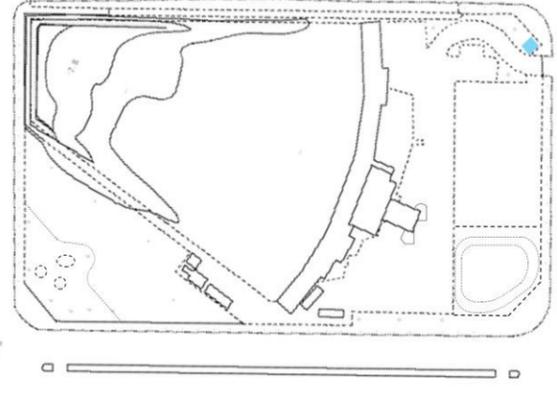


薬剤散布 8月13日

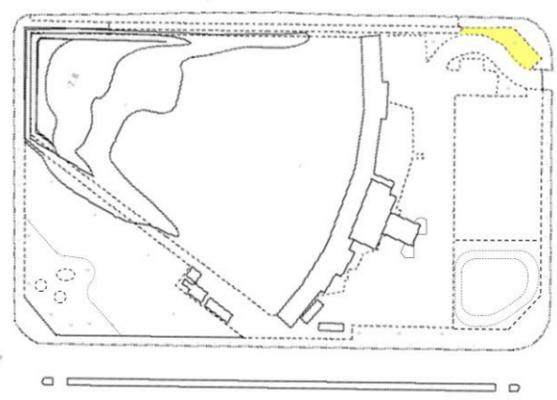


薬剤 B剤
散布量 600g
散布面積 300m²
2.0 g/m²

薬剤散布 8月4日



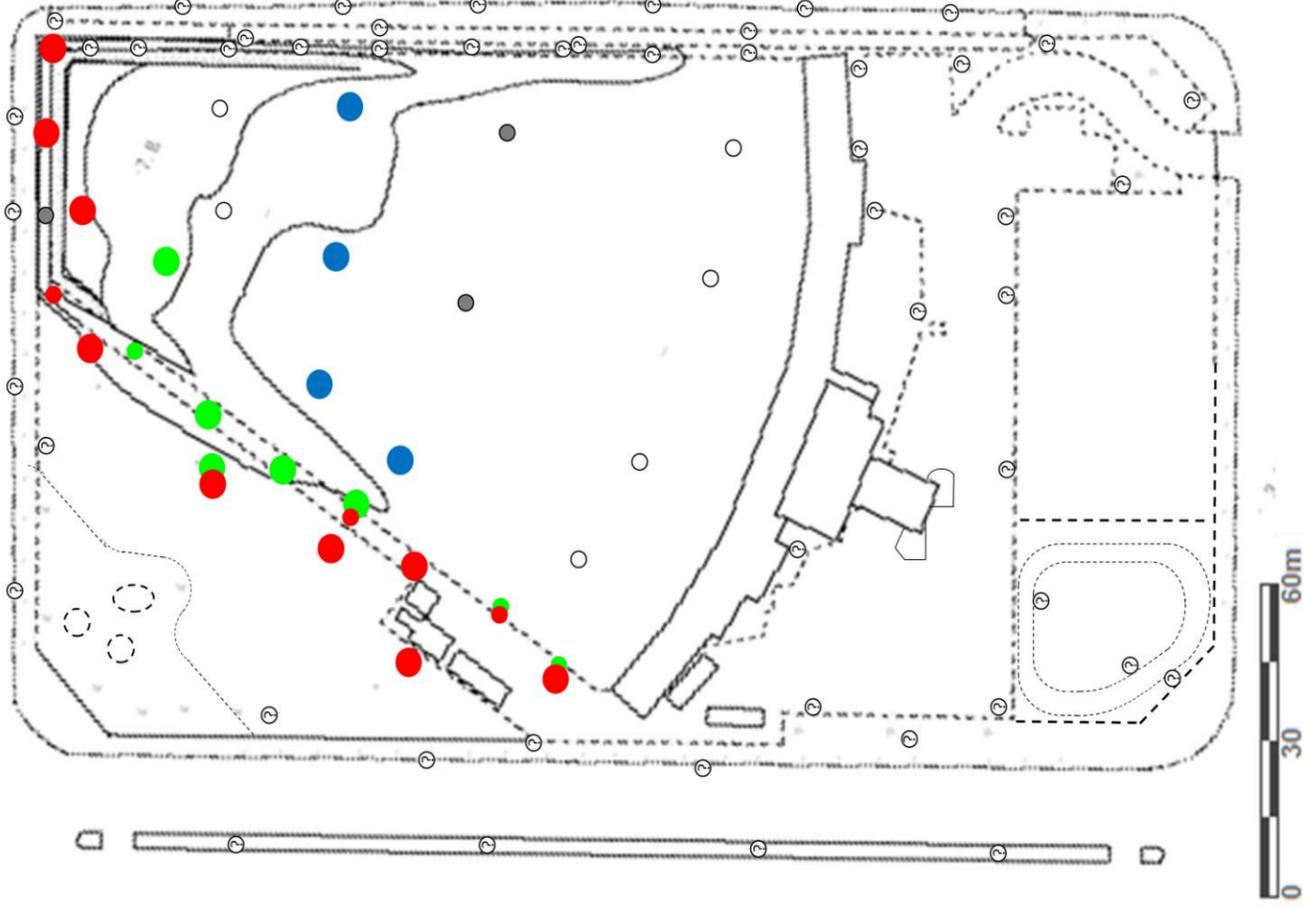
薬剤 H剤
散布量 4L
散布面積 10m²
0.4 L/m²



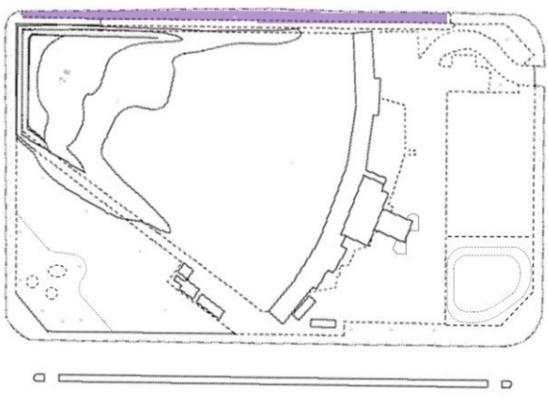
薬剤 B剤
散布量 600g
散布面積 300m²
2.0 g/m²

粘着トラップ調査【6回目】

8月20日

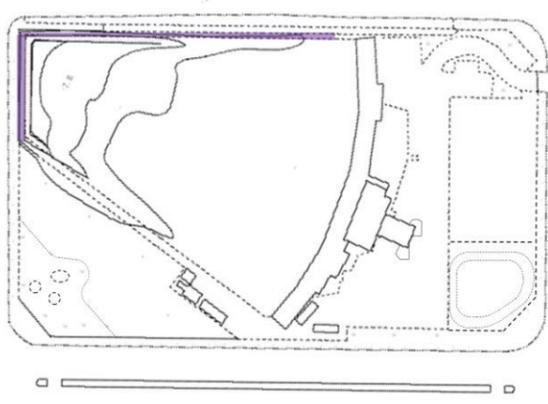


薬剤散布 8月14日



薬剤 E剤
散布量 600個
散布面積 750m²
0.8 個/m²

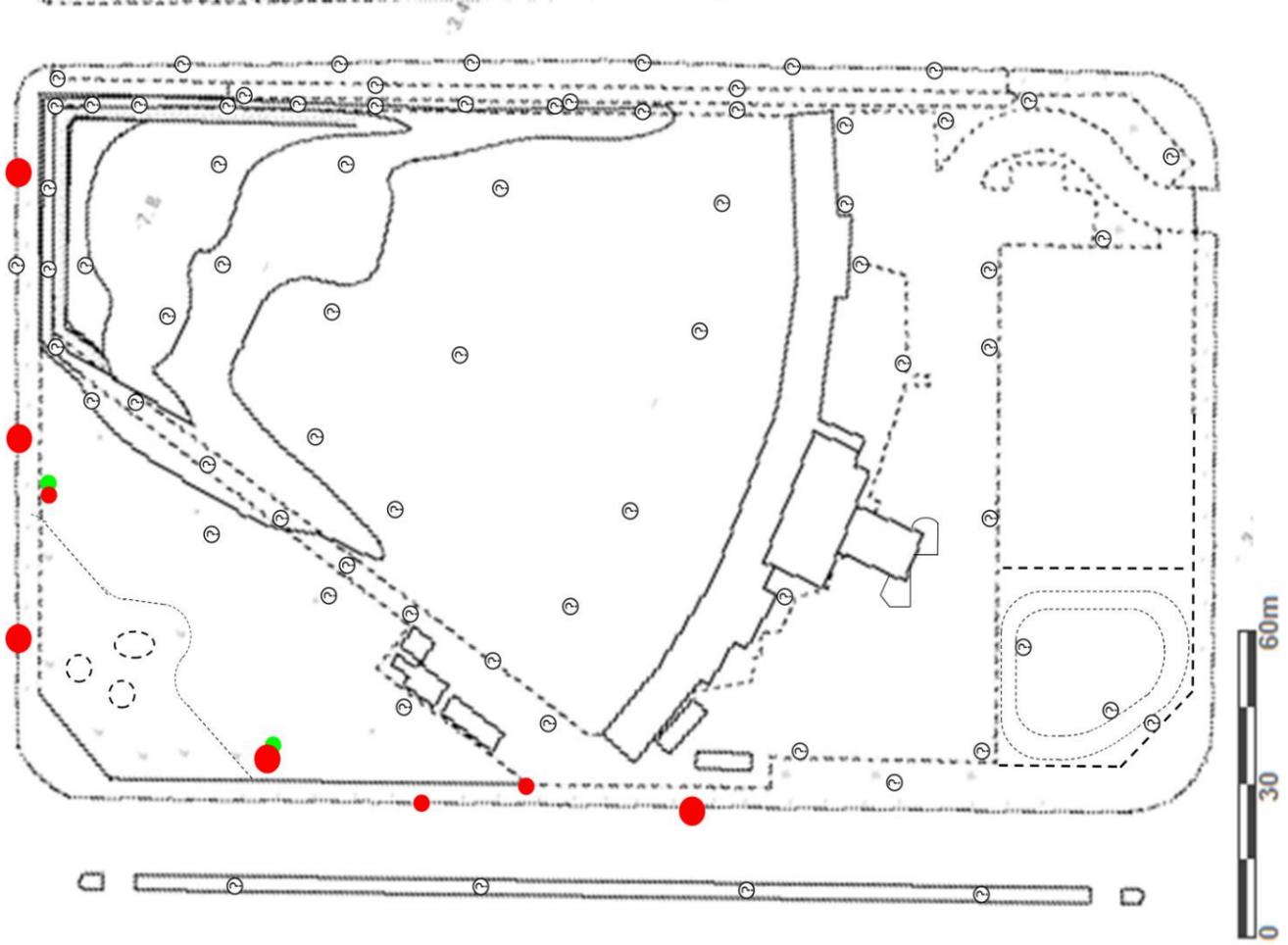
薬剤散布 9月15日



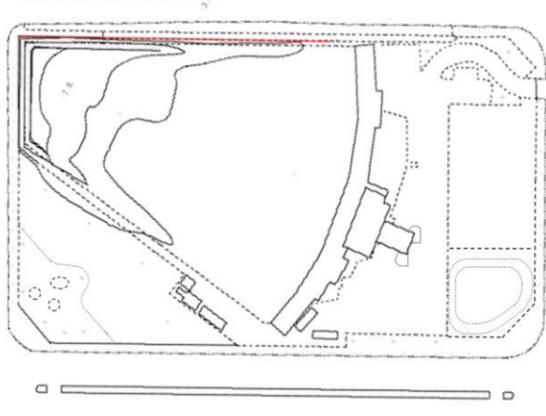
薬剤 F剤
散布量 960個
散布面積 315m²
3.0 個/m²

粘着トラップ調査【7回目】

9月18日



薬剤散布 9月20日



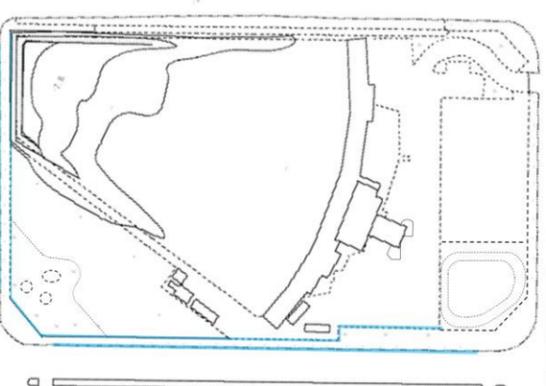
薬剤 I 剤
散布量 4400g
散布面積 80m²
55.0 g/m²

薬剤散布 9月25日



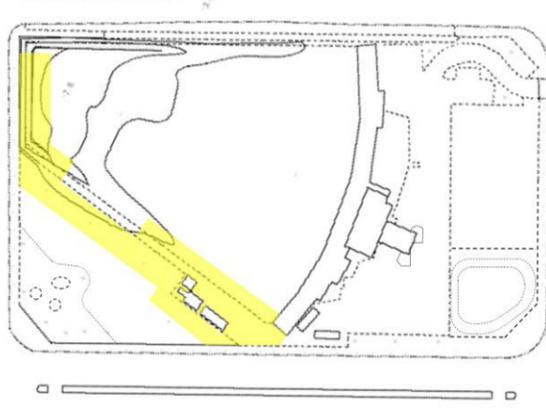
薬剤 E 剤
散布量 360個
散布面積 630m²
0.6 個/m²

薬剤散布 9月25日



薬剤 G 剤
散布量 32L
散布面積 630m²
0.1 L/m²

薬剤散布 9月28日



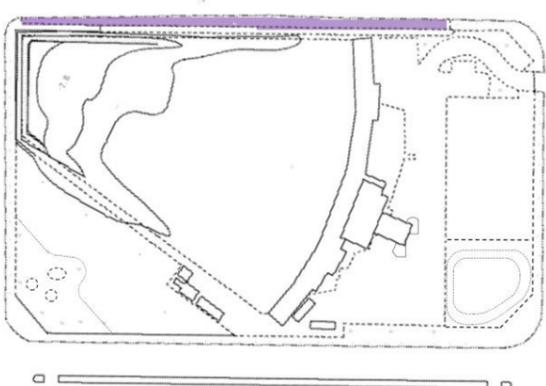
薬剤 B 剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

薬剤散布 10月3日



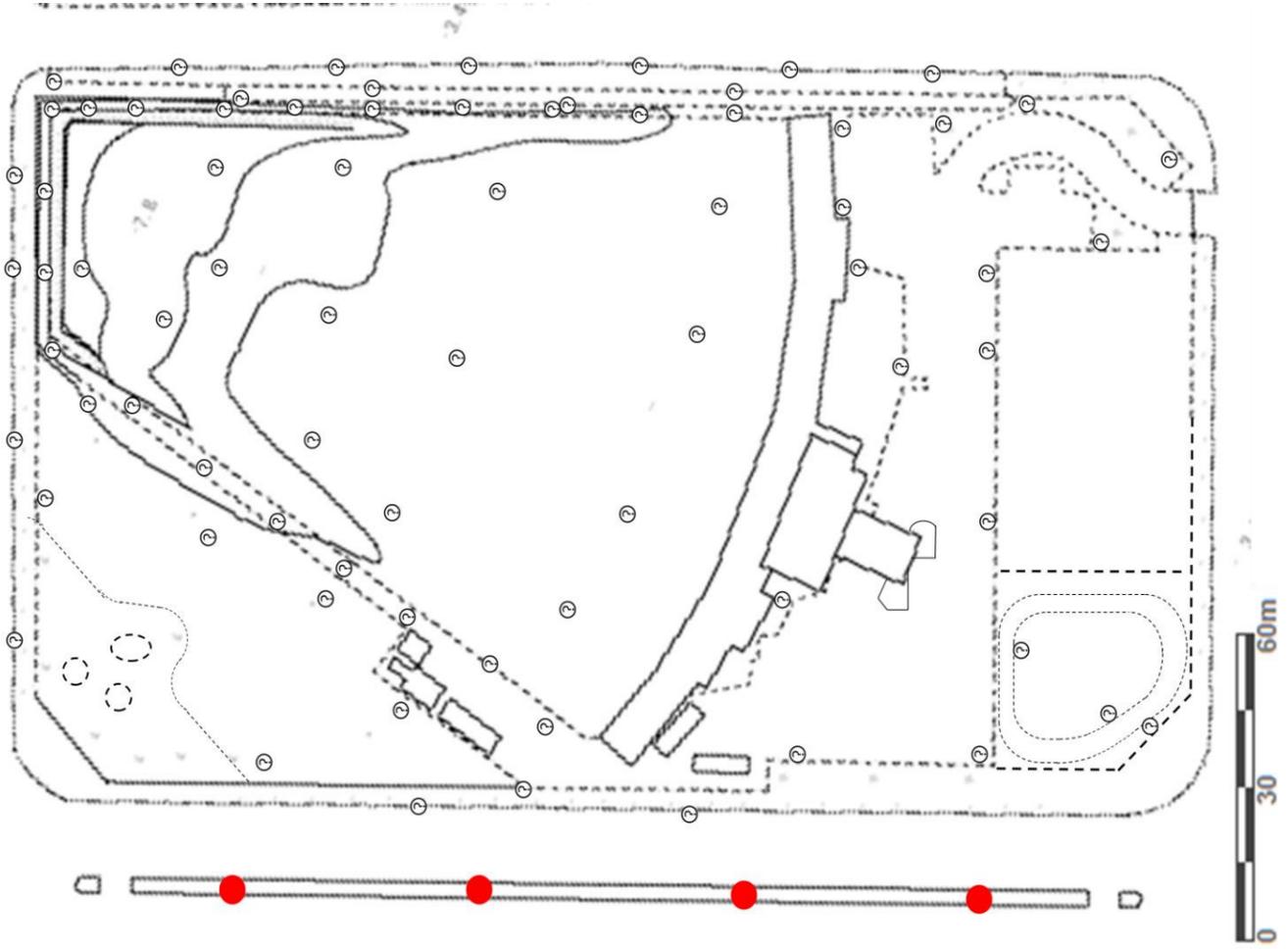
薬剤 F 剤
散布量 300個
散布面積 400m²
0.8 個/m²

薬剤散布 10月10日



薬剤 E 剤
散布量 440個
散布面積 750m²
0.6 個/m²

粘着トラップ調査【8回目】
10月12日～（72h設置）



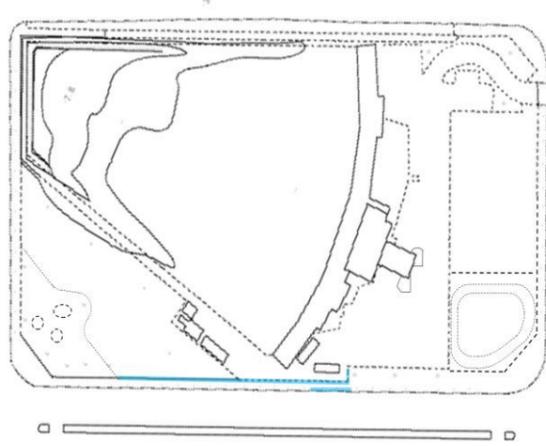
↑

薬剤散布 10月12日



薬剤
F剤 240個
散布量 1120m²
散布面積 0.2 個/m²

E剤(歩道植栽のみ)
190個
100m²
1.9 個/m²



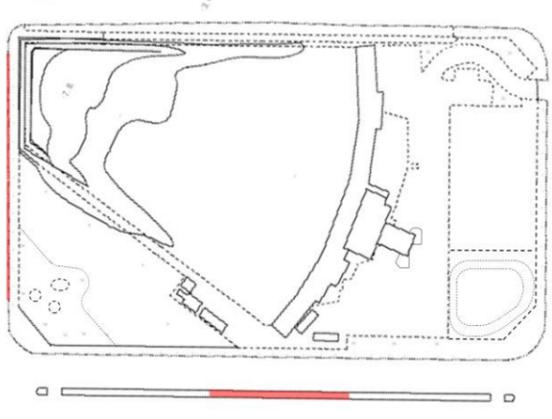
薬剤
H剤 8L
散布量 90m²
散布面積 0.1 L/m²

粘着トラップ調査【9回目】

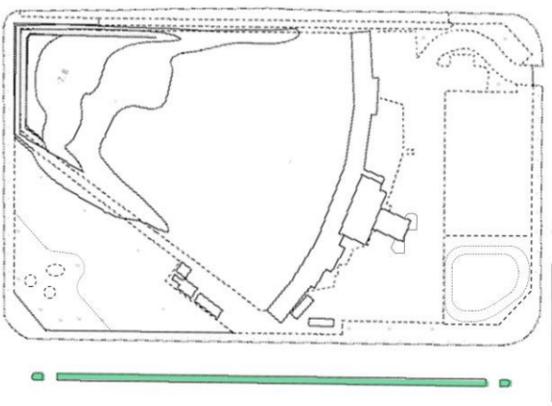
11月5日



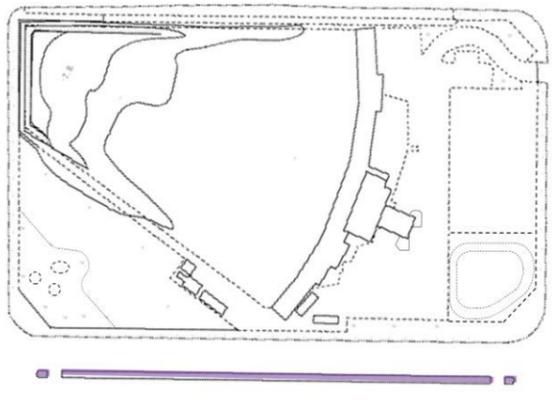
薬剤散布 10月15日



薬剤 I 剤
散布量 4400g
散布面積 300m²
14.7 g/m²

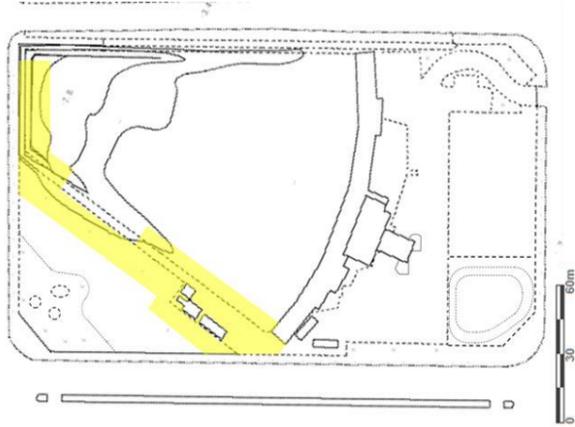


薬剤 D 剤
散布量 2000g
散布面積 520m²
3.8 g/m²



薬剤 E 剤
散布量 600個
散布面積 520m²
1.2 個/m²

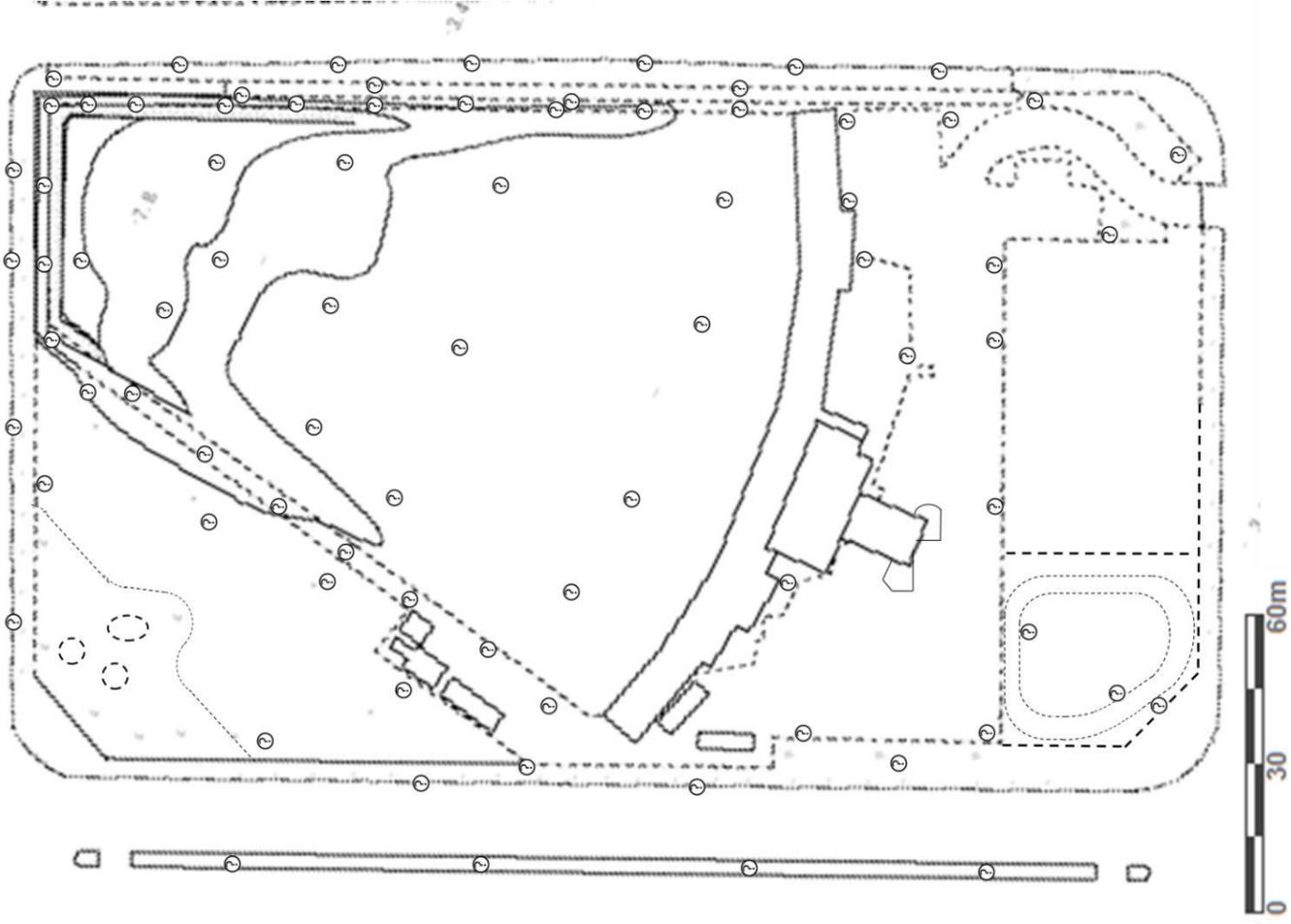
薬剤散布 10月28日



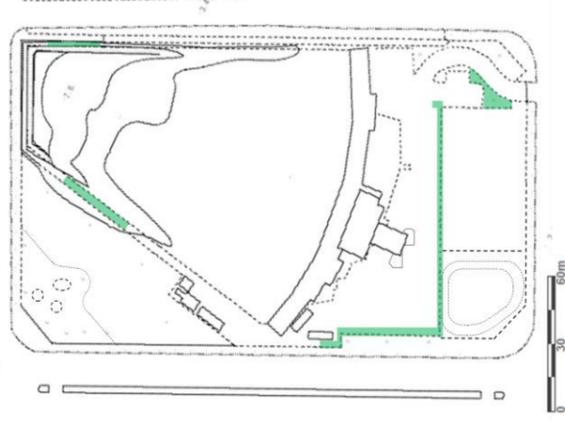
薬剤 B 剤
散布量 3000g
散布面積 3800m²
0.8 g/m²

粘着トラップ調査(防除効果の持続性確認)

【2019年度予定】初夏と秋季

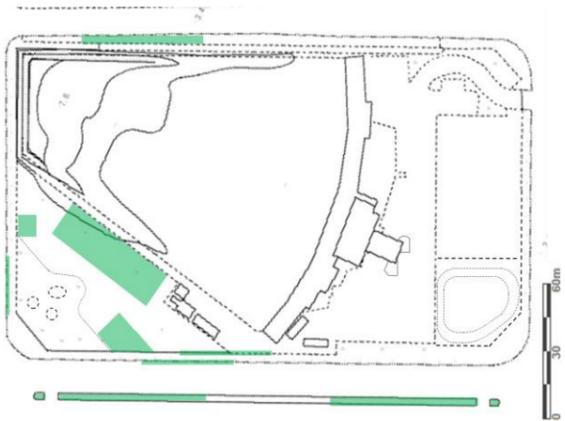


薬剤散布 11月14日



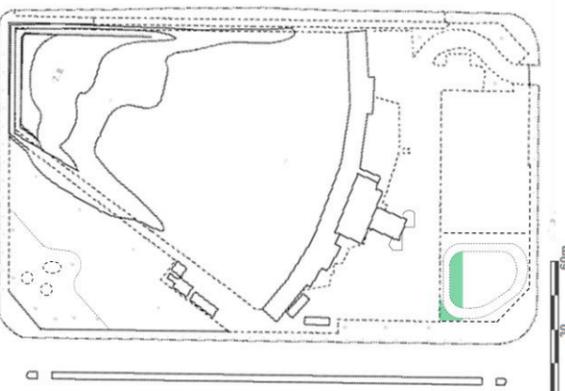
薬剤 A剤
散布量 2500g
散布面積 490m²
5.1 g/m²

薬剤散布 11月13日



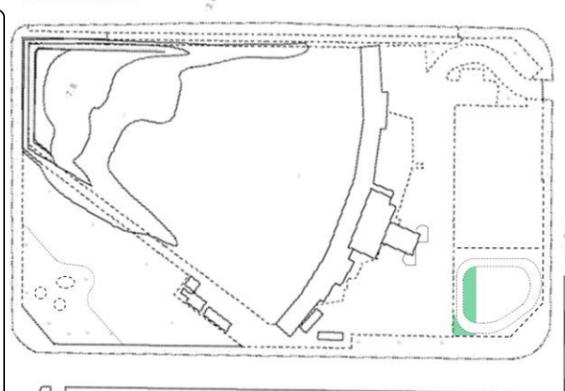
薬剤 A剤
散布量 3000g
散布面積 1200m²
2.5 g/m²

薬剤散布 11月12日



薬剤 A剤
散布量 1000g
散布面積 170m²
5.9 g/m²

薬剤散布 11月19日

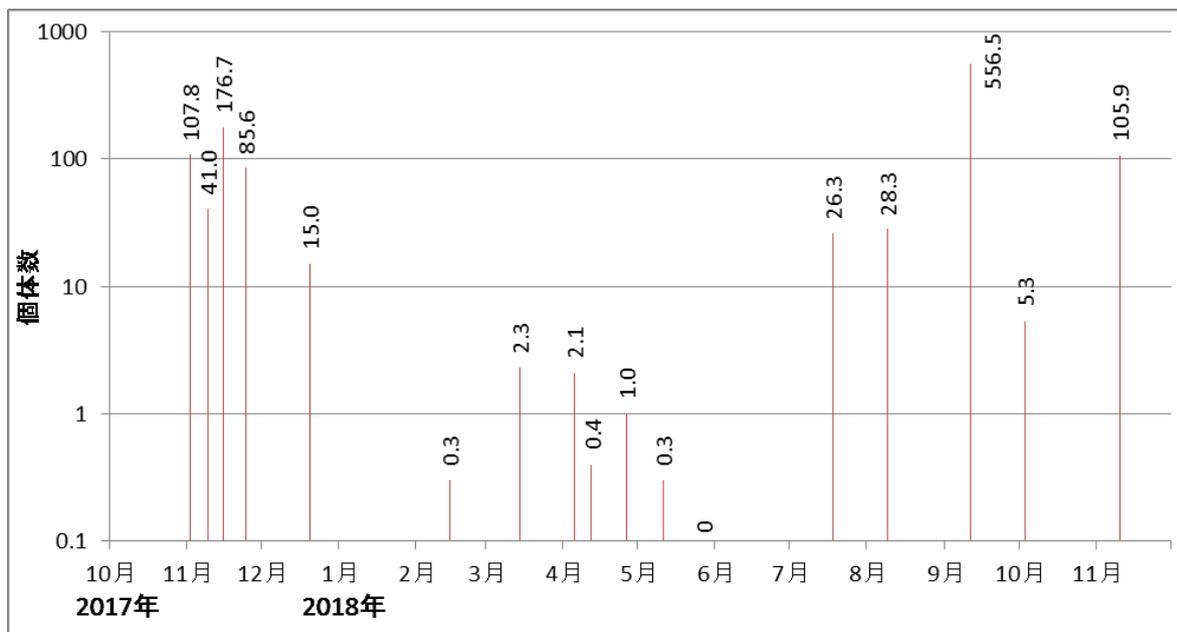


薬剤 A剤
散布量 1000g
散布面積 170m²
5.9 g/m²

【参考②】 薬剤を散布していない中公園と北公園のアリの動向

ポートアイランドでアルゼンチンアリが生息している中公園と北公園について、糖液シート調査（中公園 10 地点、北公園 10 地点）を実施し、薬剤を散布しない場合のアルゼンチンアリの動向を調査した。なお、アルゼンチンアリが優占している状況と推定されることから糖液シートに集まったアリは、区別することなく計上した。

【中公園の推移】



【北公園の推移】

